

裁判所庁舎設計標準図

平成7年4月【平成18年12月までの改訂含む】

最高裁判所事務総局経理局営繕課

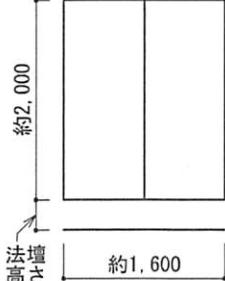
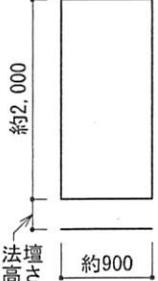
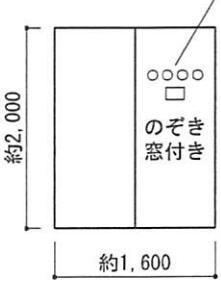
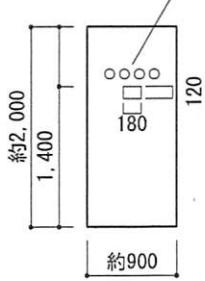
目 次

法廷別 事件表示板 切抜き文字等	1
合議法廷・単独法廷平面詳細例	3
一般法廷用家具詳細	5
切抜き文字詳細・張付け位置	11
事件表示板詳細	13
法廷傍聴人用いす配置例	15
調停室・医務室関係・階段参考例	16
[REDACTED]	18
[REDACTED]	22
審判廷・傍聴人心得板等・各種棚	24
コンセント・法廷拡声設備	26
[REDACTED]	28
別添資料	30



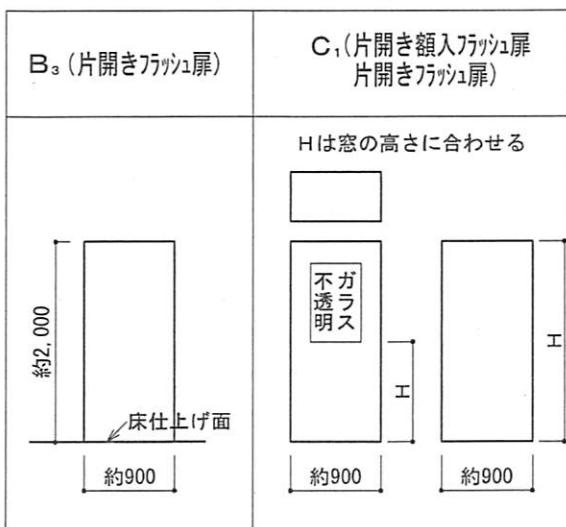
: 平成7年4月以降改訂した部分を示す。

1 法廷別・事件表示板・切抜き文字等

			大合議法廷	合 議 法 廷			
			(A-1) 特定本庁	(A-2) 特定支部 以 上	(A-3) 本 庁	(A-4) 合議事件 取扱支部	
場 所	用 途	表示板 室名札 扉型式 設置区分	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
一般廊下	傍聴人入口	B ₁	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>			
	傍聴人入口	B ₁		<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>		<input type="radio"/> <input type="checkbox"/>
	傍聴人入口	B ₂				<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>
	検察官・弁護人入口	B ₂	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/> <input type="checkbox"/>
	その他入口	B ₂ B ₃	<input type="radio"/>				
法廷の概略大きさ (間口×奥行)			実状による		9.0×13.5	7.5×10.5	9.0×12.0
法廷の概略高さ (天井高)			4.3		3.5	3.5	3.5
符号	A ₁ (両開きフリッシュ扉)	A ₂ (片開きフリッシュ扉)	B ₁ (両開きフリッシュ扉)		B ₂ (片開きフリッシュ扉)		
扉型式 (参考例)							



単 独 法 廷				ラウンドテーブル法廷				記号凡例	
(B-1) 合議事件取扱支部 以 上	(B-2) 合議事件 非取扱支部	(B-3) 独立簡裁	(C-1) 本庁以上	(C-2) 実状による					
									備 考
○	□	○	□	○	□	○	□	○	□
○	□	○	□	○	□	○	□	○	□
7.5×10.5	7.5×10.5	6.5×10.5	5.6×9.0	6.0×8.5	5.0×6.5	単位 m			
3.5	3.5	3.5	3.0	3.0	2.7	単位 m			

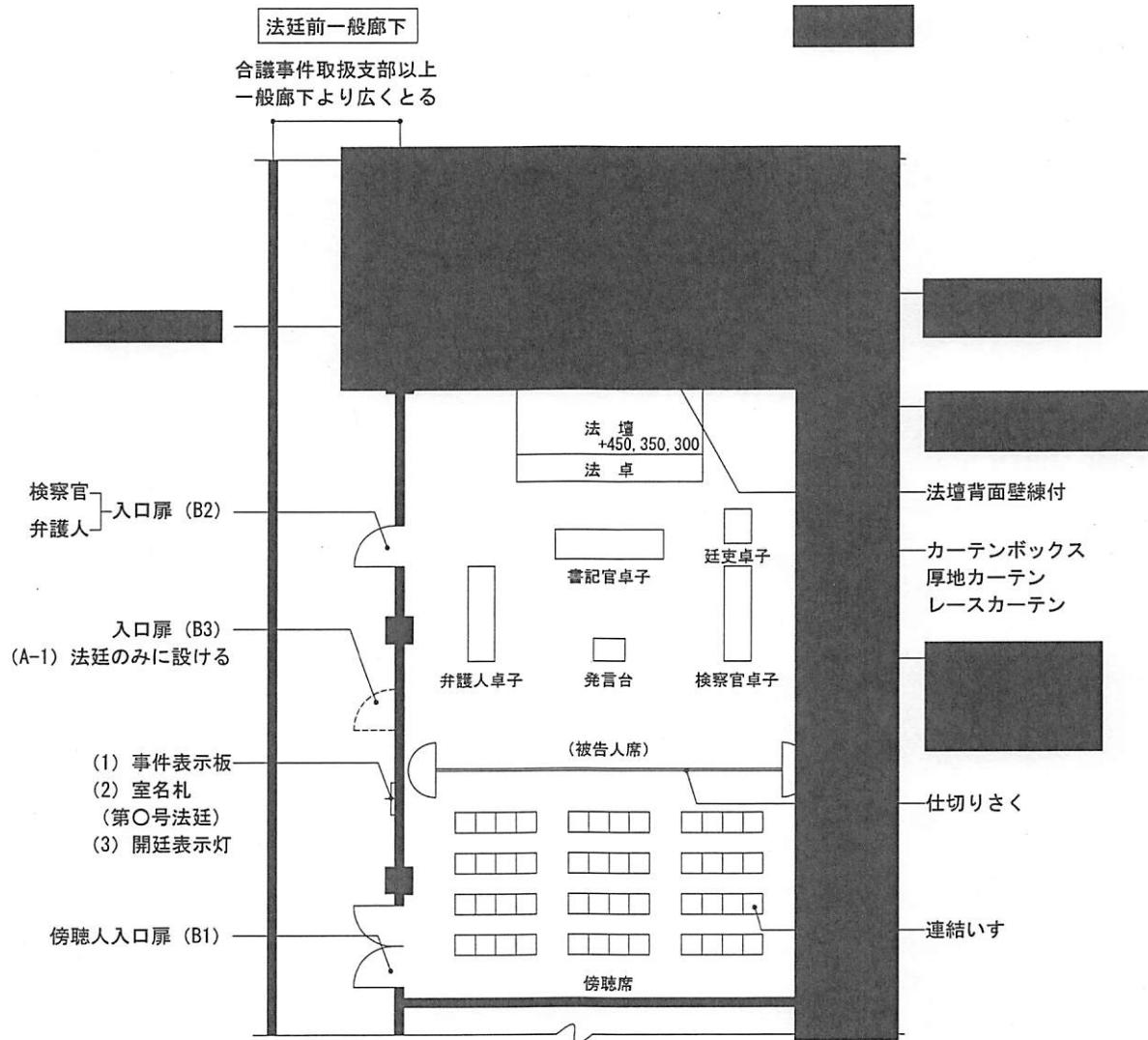


■ 注意事項

- (A-3) 法廷は、本庁で合議法廷1室の時設ける。
- 扉・事件表示板・室名札・切抜き文字は、別図詳細参照。
- 二重扉の場合は、内側の扉のみ、のぞき窓を設ける。
- 両開きフランジ扉B₁ののぞき窓は法壇に近い方の扉につける。
- ドアクローザ（原則は、付けない）を付ける場合は、室外に取付ける。
-
- ラウンドテーブル法廷の出入口は、実状による。
- 二重床の適用法廷、施工範囲は別添資料「二重床及びタイルカーペット対象室」による。

2 合議法廷・単独法廷平面詳細例

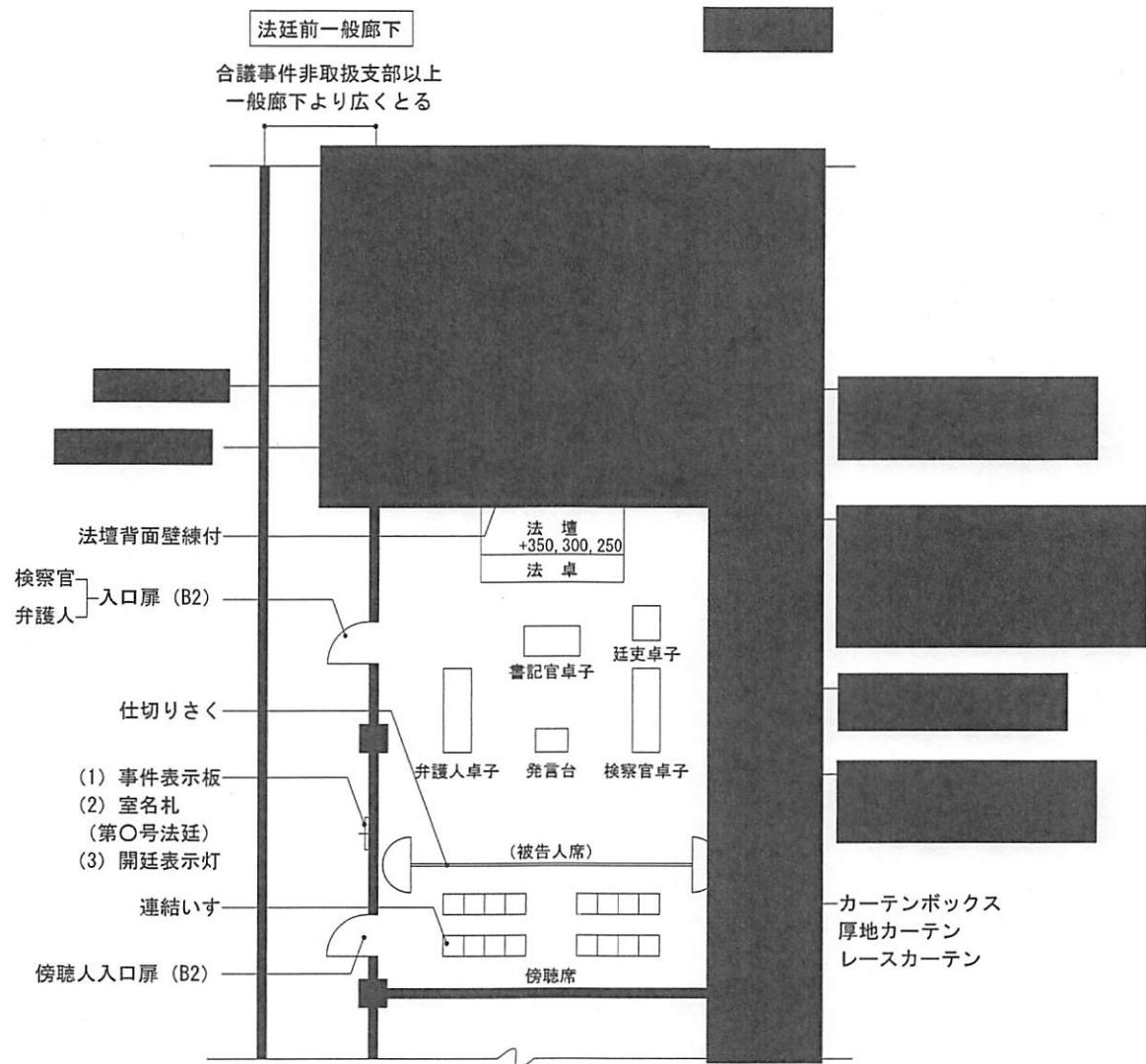
■ 合議法廷平面図



■ 法廷共通事項

1. 還りダクトを法壇の下に設ける場合は、壇下床成を充分取るため、根太は、大引に全欠込みとする。
2. 法廷、[REDACTED]の扉等は別添資料「扉、間仕切り壁及び天井の仕様について」による。
3. クリヤストリ式の窓を屋根面側に設ける場合は、屋根面より窓台までの高さを充分取り、雨水の浸透に注意し、ガラスは、不透明ガラスとする。
4. [REDACTED]
5. 法廷家具、法廷用扉、事件表示板、切抜き文字、室名札、傍聴人用いすは、別図参照とする。
6. [REDACTED]
7. [REDACTED]

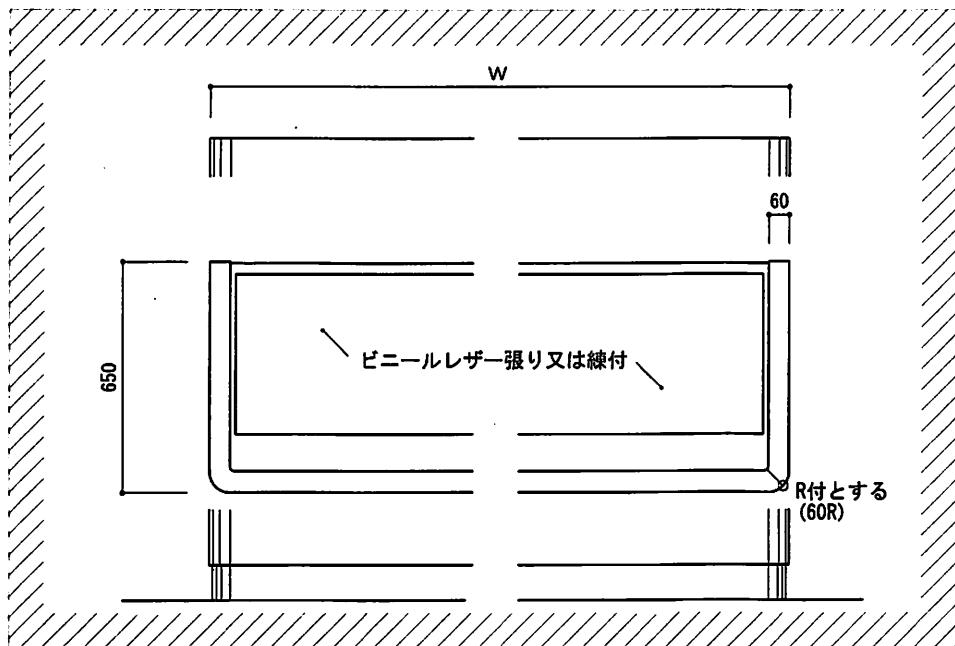
■ 単独法廷平面図



- 8.
- 9.
10. 一般廊下側の扉の吊元は、法壇より遠い方とする。
- 11.
- 12.
- 13.
- 14.
15. 傍聴人用いすについては、車椅子使用者を考慮し、一部を着脱式とする。

3 一般法廷用家具詳細

■法壇及び法卓



法廷種別		W
特定本庁	大合議法廷	6,000 以上
合議事件 取扱支部 以上	単独法廷	* 3,500 2,700 3,000
	合議法廷	※6,000 4,000
合議事件 非取扱支部	単独法廷	* 3,500 2,400
簡裁	単独法廷	3,300

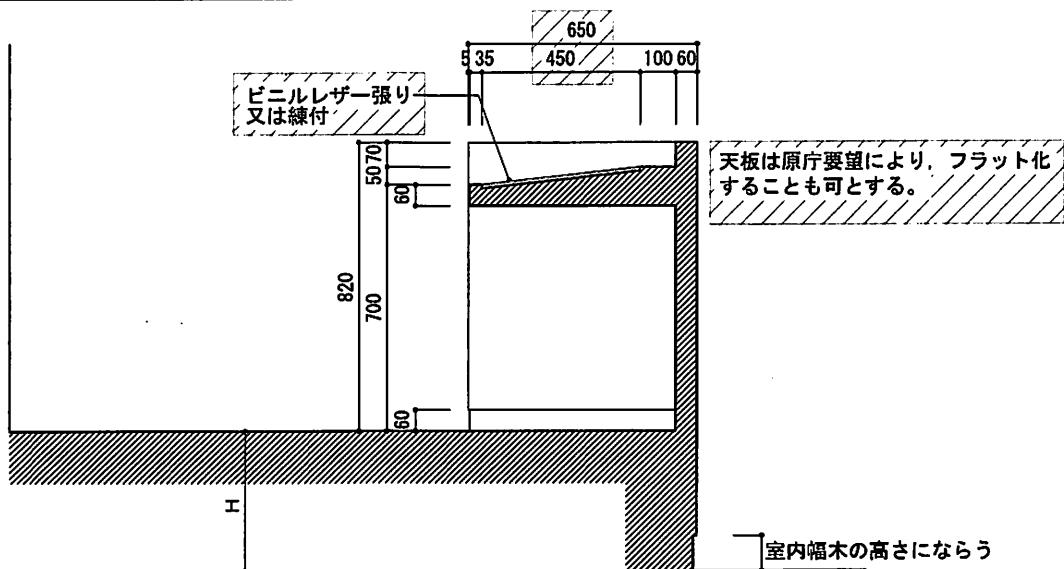
(注) W=2,700以上の場合は、甲板の支持補強を考慮する。

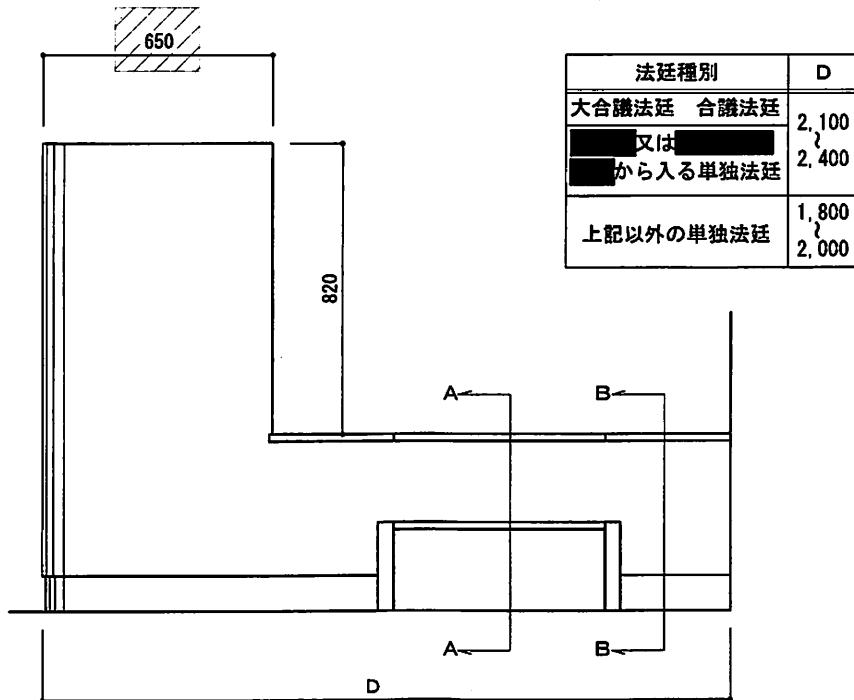
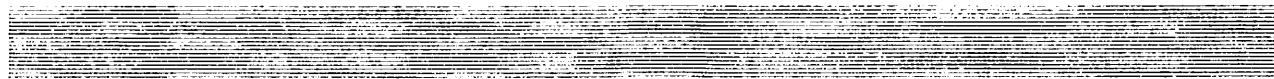
法卓は目地を入れたもの等3種類のデザインを別図に例示しているが、原庁と打合せの上、新たにデザインすることも可とする。

(注) *印は、簡裁用法廷を示す。

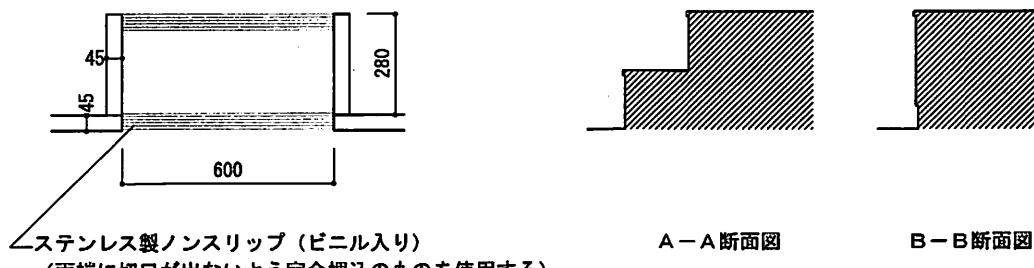
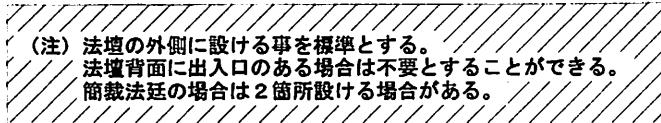
※印は、5人合議用法廷を示す。

法廷種別	H
大合議法廷	450
合議法廷又は単独法廷	民事専用の場合 300
	刑事専用及び民事刑事兼用の場合 350
独立簡裁の単独法廷	250又は300





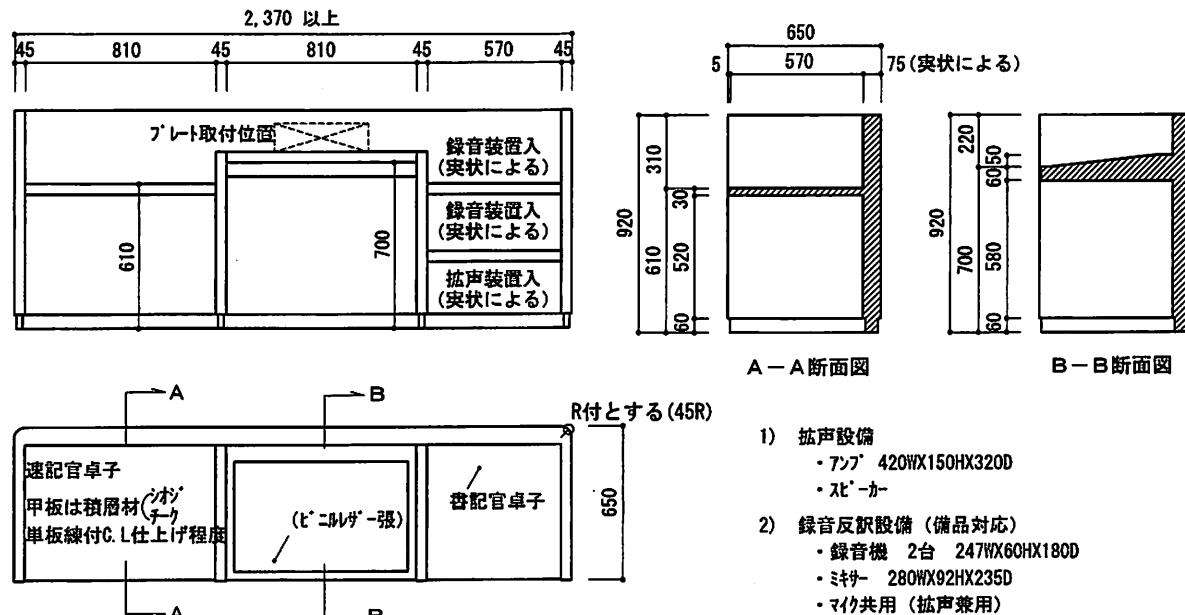
■ 法壇階段



■ (一般法廷用家具) 共通仕様書

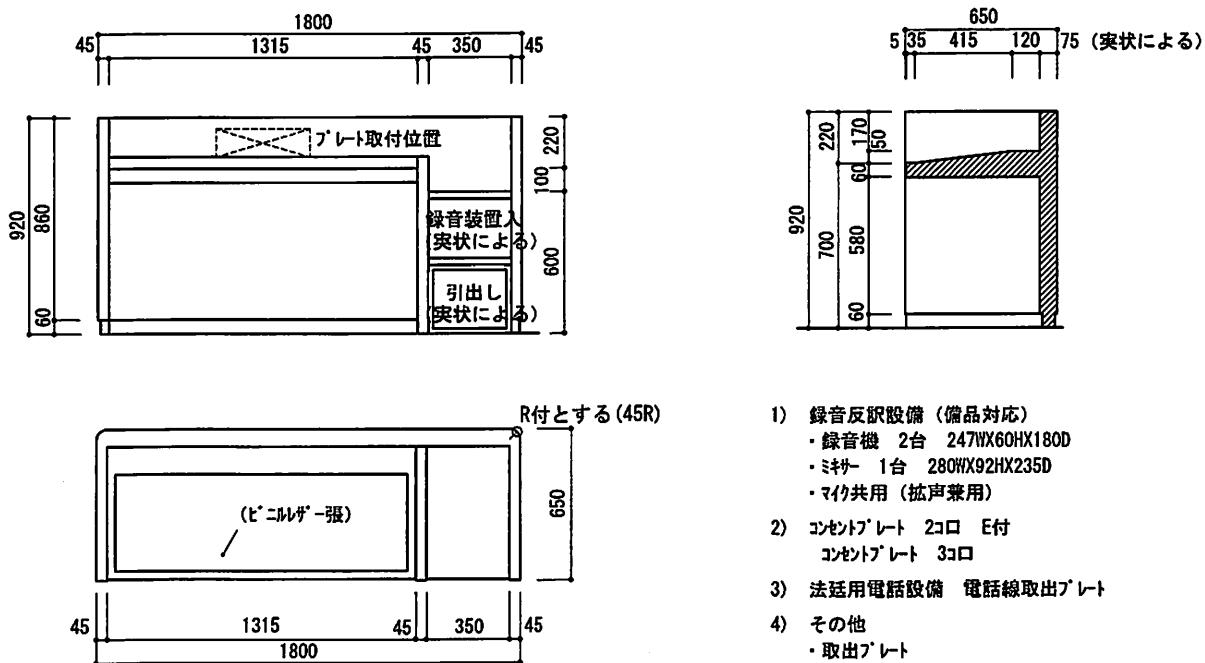
- (1) 表面、裏面、両袖：合板（ラワン）厚さ5.5mm（甲板12.0mm）下地に
シオジまたはテーク征単板線付クリヤーラッカー仕上げ程度
- (2) 底裏 : 合板（ラワン）張（厚さ5.5mm）クリヤーラッカー仕上げ
- (3) 移動式家具には、床面不陸調整装置をつける
- (4) マイクロホンを取付ける卓子は孔明け補強を行う

■書記官卓子（本庁以上の合議法廷）

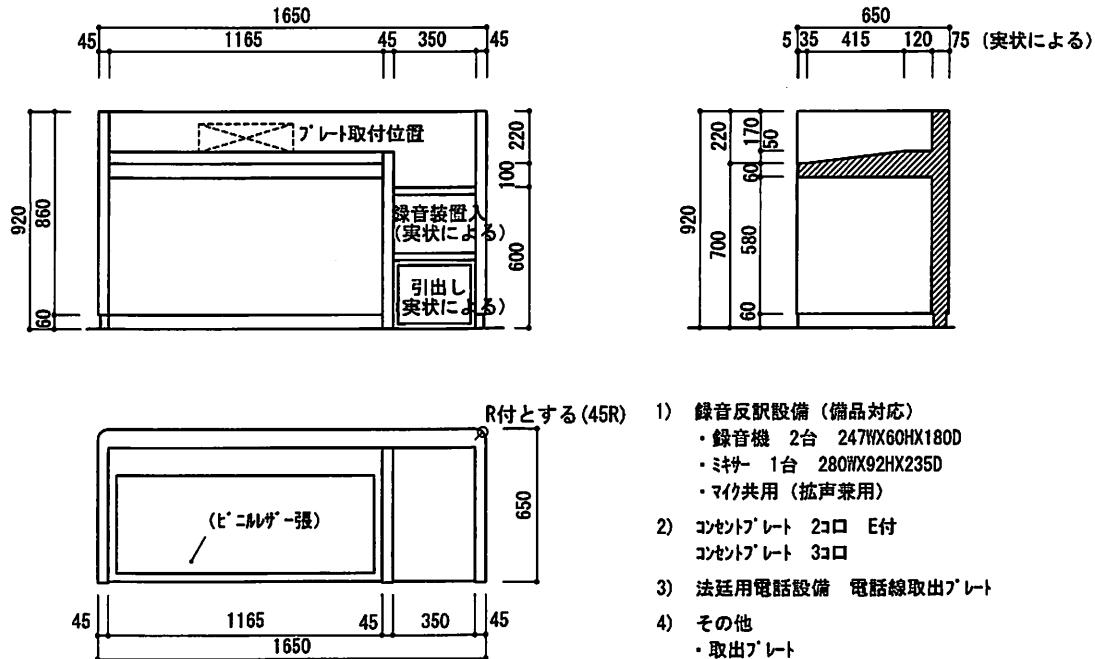


- 1) 拡声設備
 - ・7インチスピーカー 420WX150HX320D
 - ・スピーカー
- 2) 録音反訳設備（備品対応）
 - ・録音機 2台 247WX60HX180D
 - ・マイク 280WX92HX235D
 - ・マイク共用（拡声兼用）
- 3) コンセントブ'レート 2口 E付
コンセントブ'レート 3口
- 4) 法廷用電話設備 電話線取出ブ'レート
- 5) その他
 - ・取出ブ'レート

■書記官卓子（支部の合議法廷）

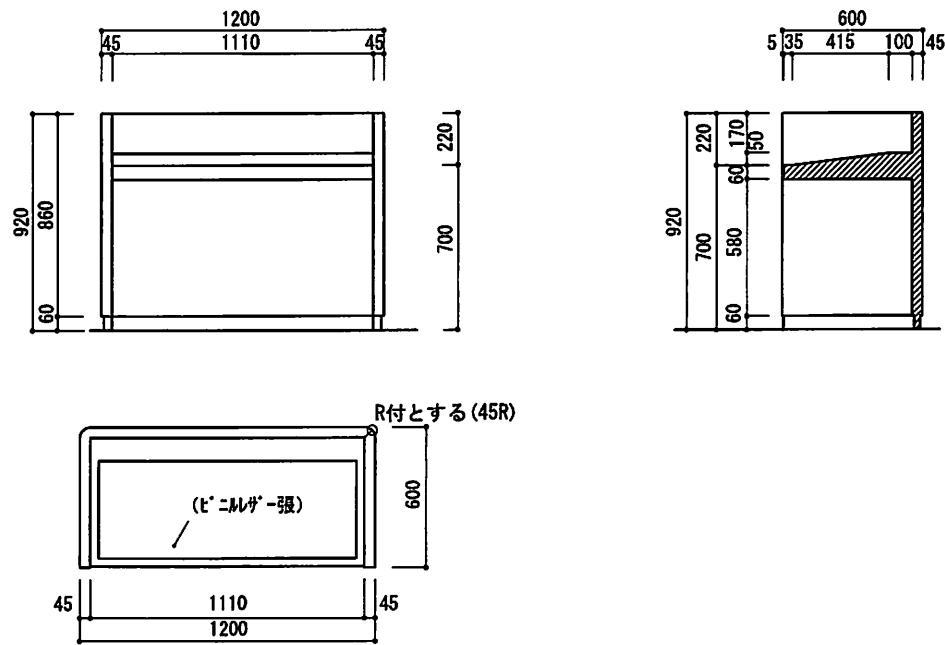


■書記官卓子（支部以上の単独法廷）



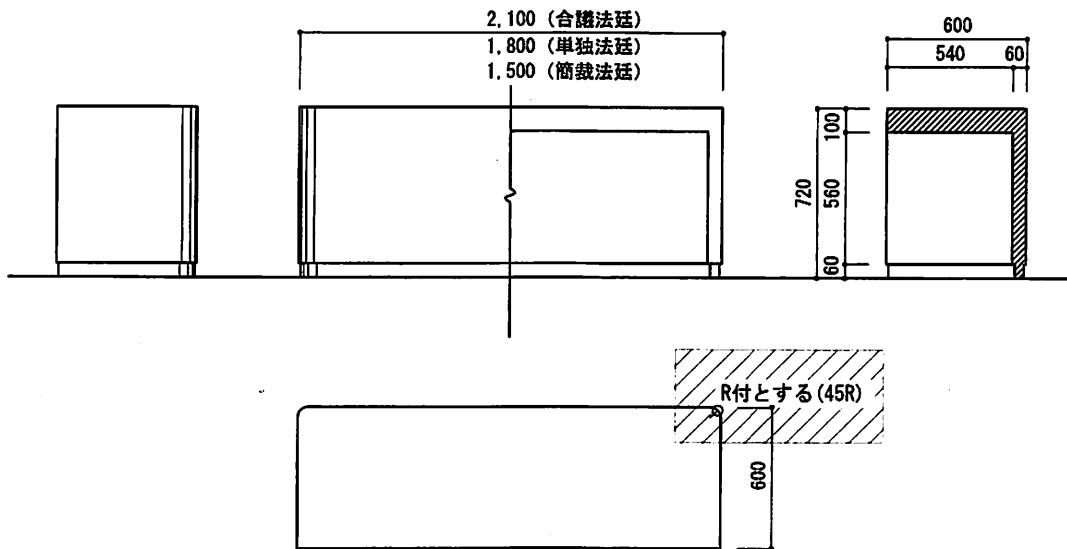
- 1) 録音反訳設備（備品対応）
 - ・録音機 2台 247WX60HX180D
 - ・マイク 1台 280WX92HX235D
 - ・マイク共用（拡声兼用）
- 2) コンセントプレート 2コロ E付
コンセントプレート 3コロ
- 3) 法廷用電話設備 電話線取出プレート
- 4) その他
 - ・取出プレート

■書記官卓子（独立簡裁の単独法廷）

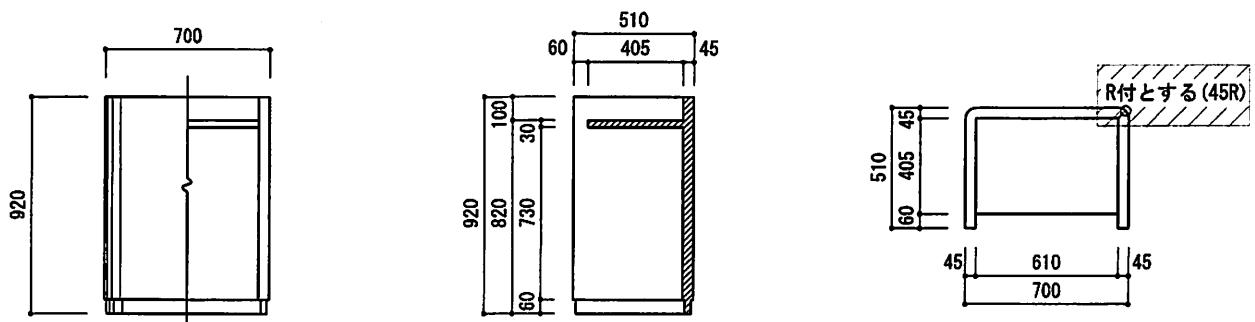




■検察官、弁護人卓子

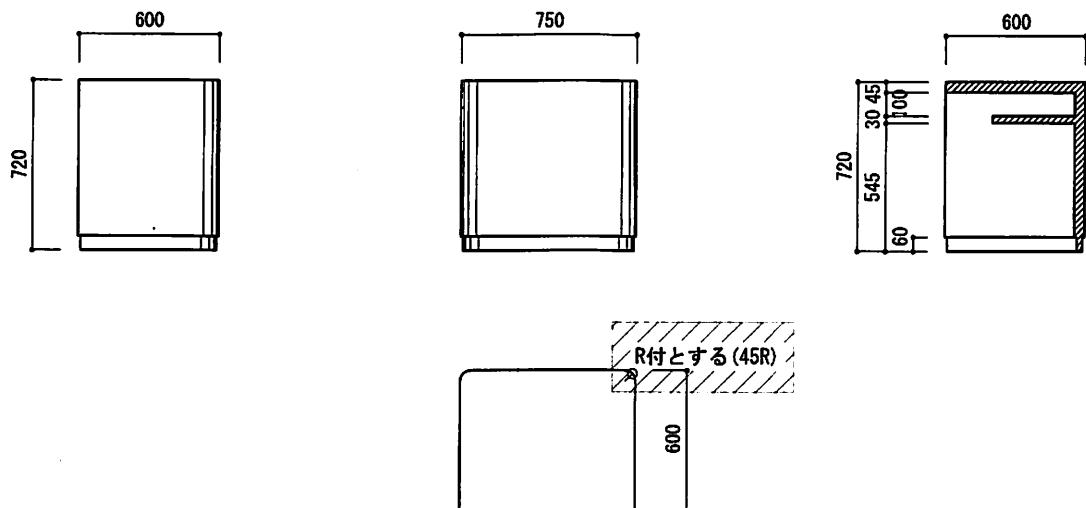


■発言台





■廷吏卓子

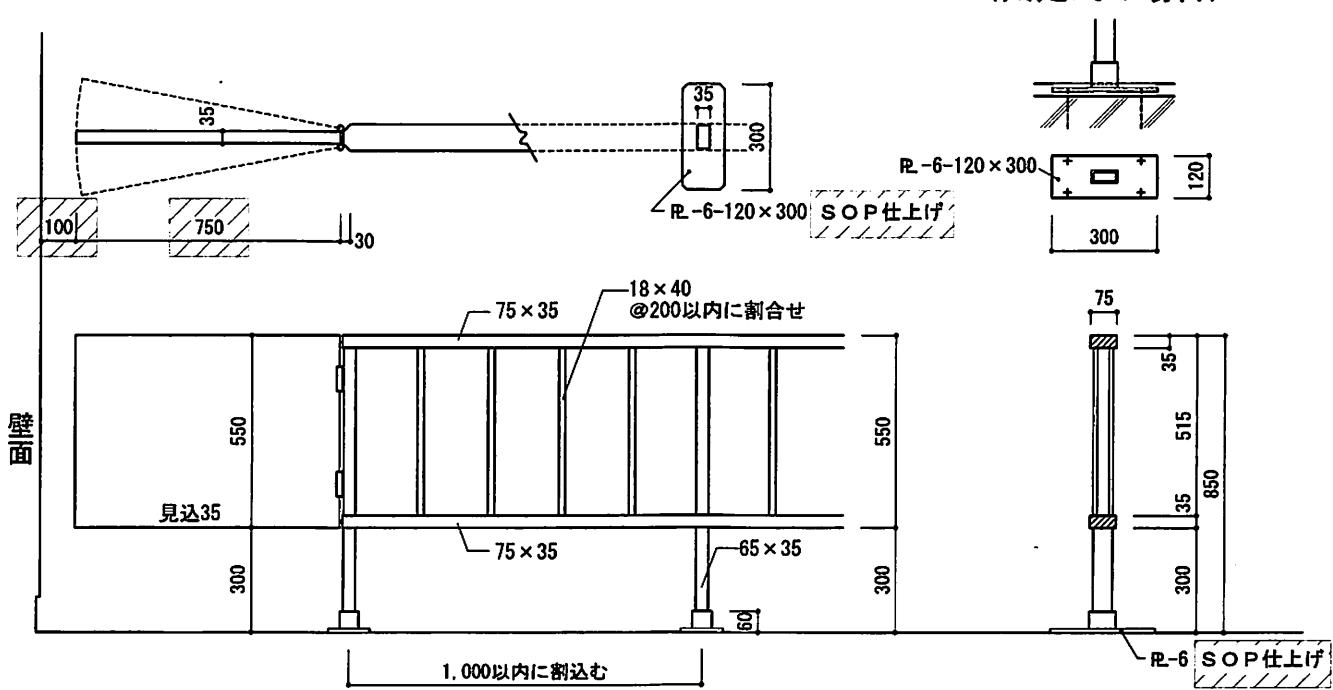


■仕切りさく

合議法廷は固定式、単独法廷及びラウンドテーブル法廷は、移動式とする。

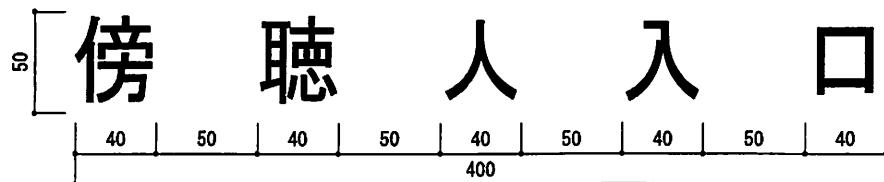
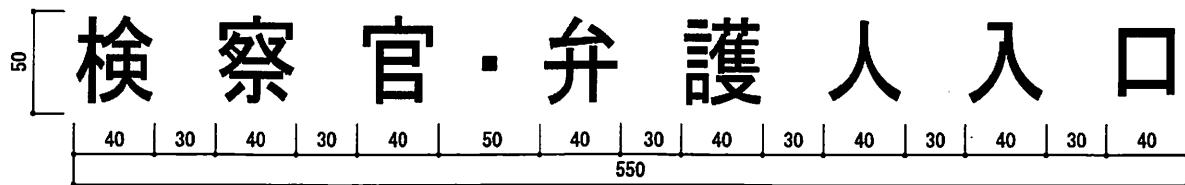
ただし、(A-3) 合議法廷は移動式とする。

(固定式の場合)

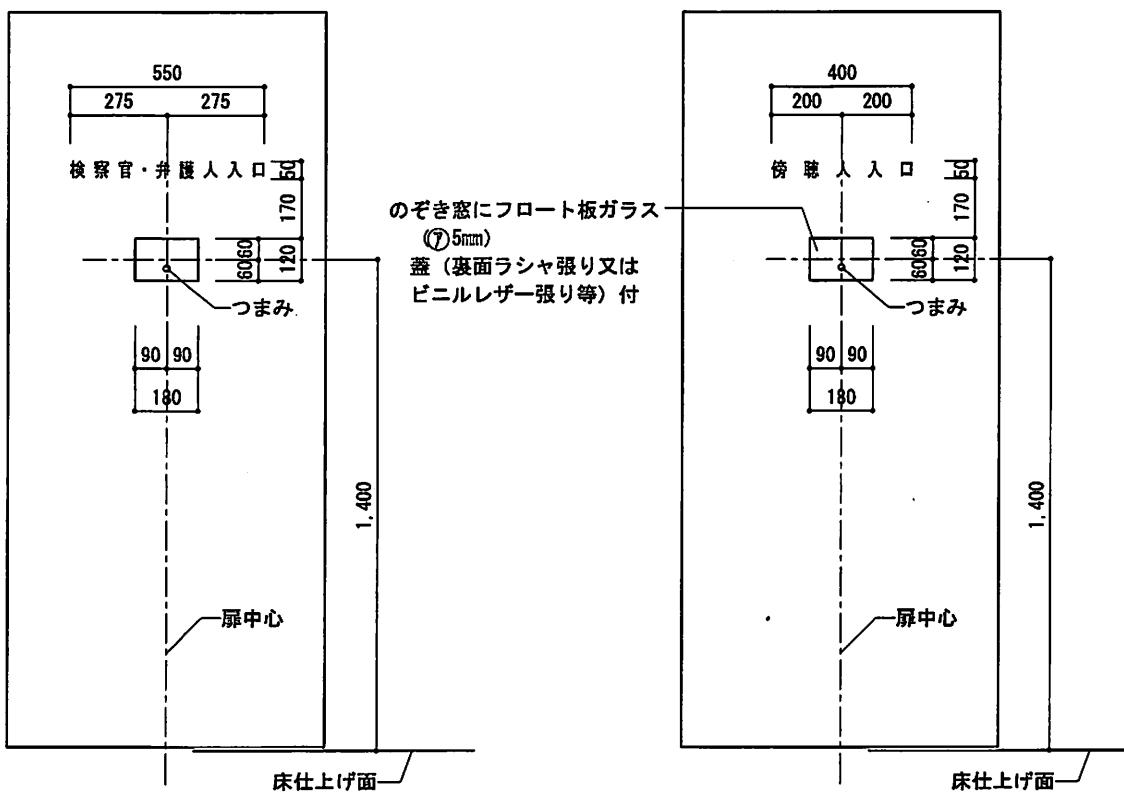


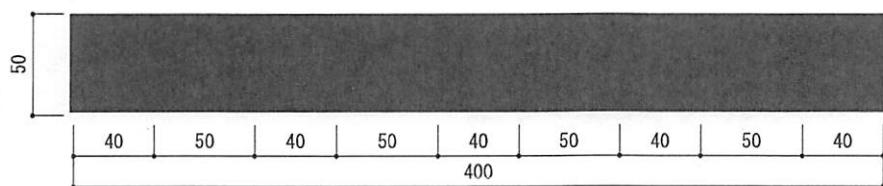
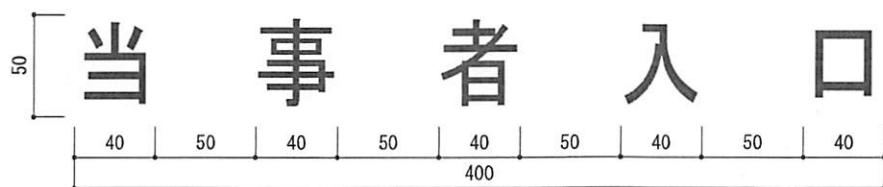
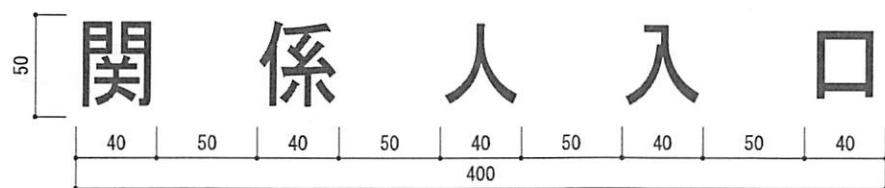
4 切抜き文字詳細・張付け位置

■切抜き文字張付け詳細



■切抜き文字張付け位置



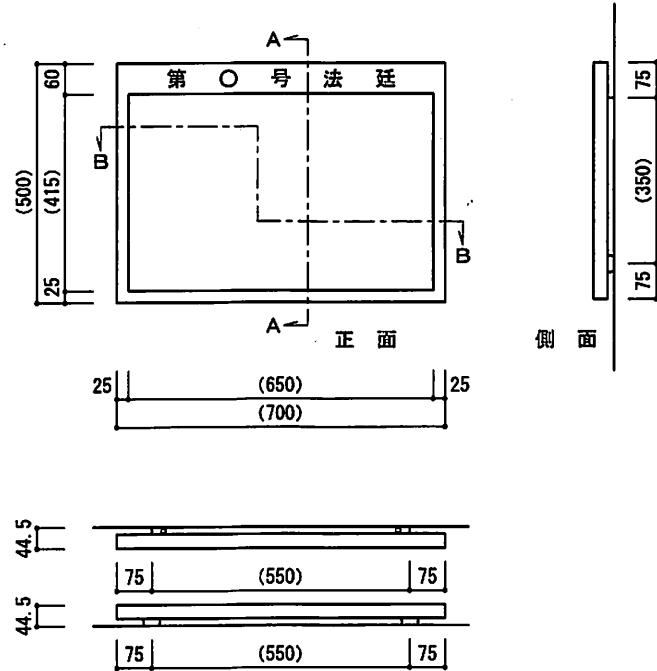


■注意事項

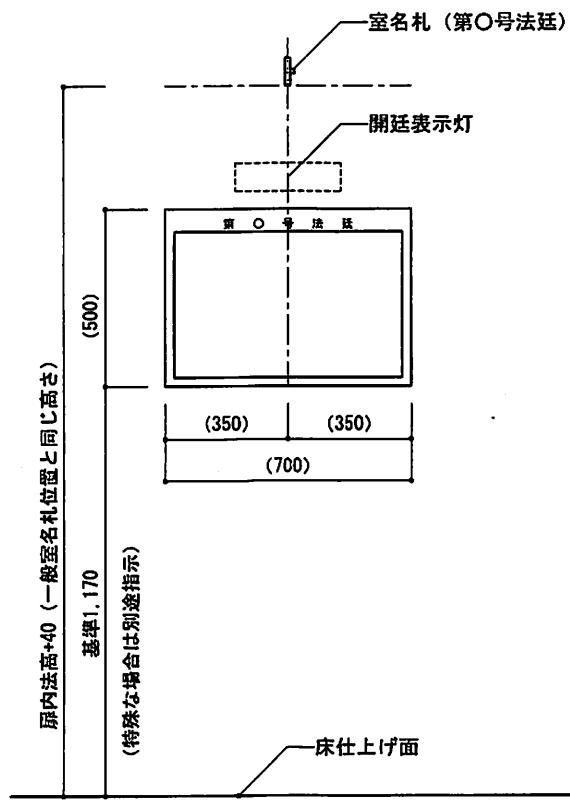
1. 書記官、検察官、弁護人入口は、書記官の文字を張付けず、「検察官・弁護人入口」とする。
2. 民事法廷にする場合は、検察官、弁護人入口のところを、実状により「関係人入口」又は「当事者入口」とする。
3. [REDACTED]
4. 傍聴人入口の両開き扉は、常時開閉しない扉（法壇に近い方の扉）に切抜き文字を張り付ける。
5. 審判庭の扉に [REDACTED] と「関係人入口」を張付けることができる。
6. 文字の形式は、角ゴシック体を標準とする。
7. 切抜き文字の材質は、アクリル樹脂板厚3mm以上とする。
8. [REDACTED]

5 事件表示板詳細

■事件表示板姿図

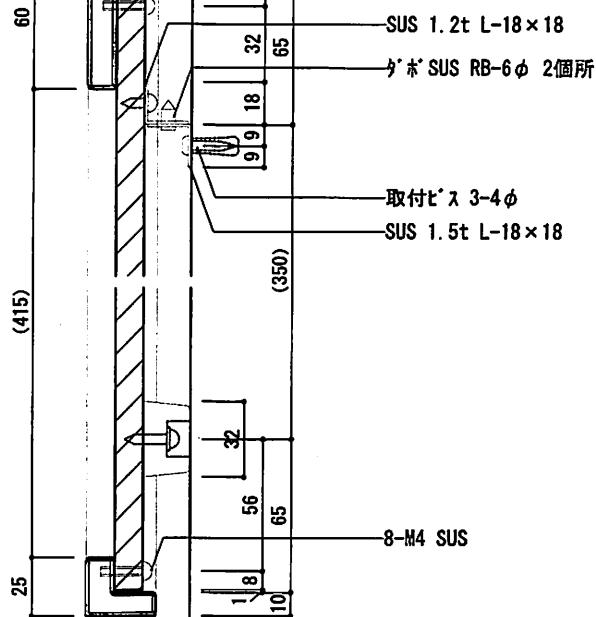


■事件表示板取付位置



枠外角出し加工（約R0.6）

補強SUS1.2t



SUS : ステンレスSUS304

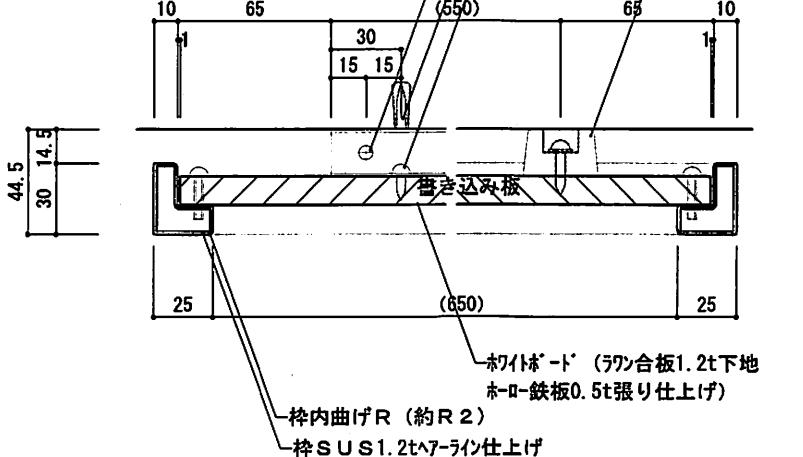
A-A 側断面詳細図

タボ SUS RB-6φ (孔明け7φ) 2個所

取付ビス3-4φ

木ねじ3-4φ

合成ゴム脚 2個所



SUS : ステンレスSUS304

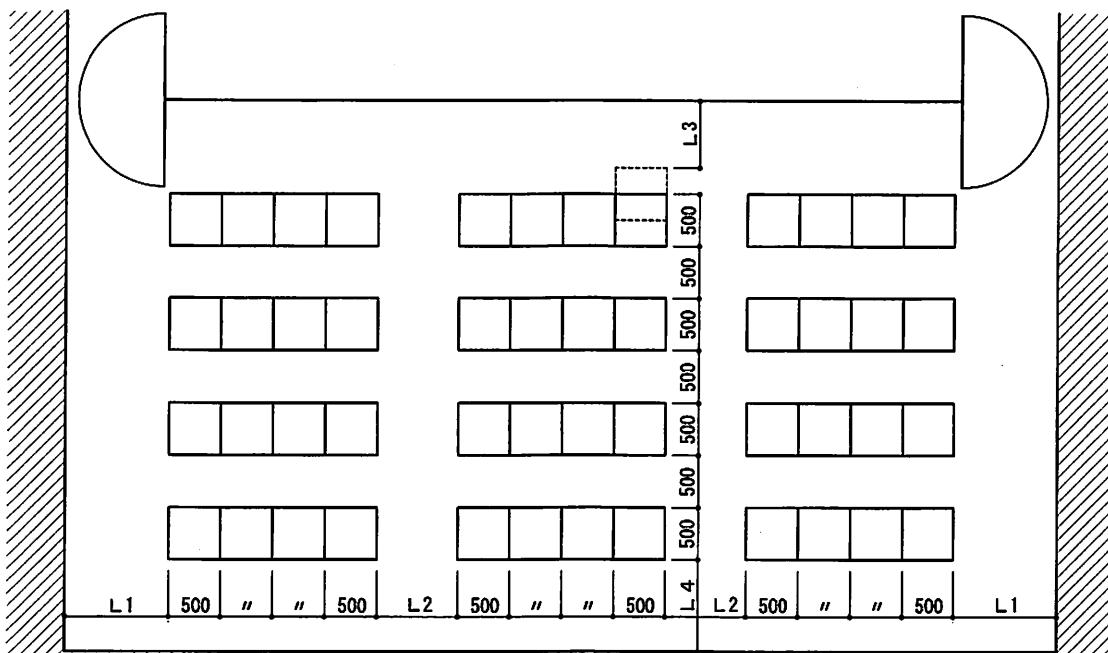
B-B 平断面詳細図

■ 注意事項

- 事件表示板取り付け位置は、図を参照する。
- 用紙で掲示するときは「マグネット」、「バネハサミ」等、現地裁判所と打ち合わせの上決める。
- 書き込み板にして記入する場合、区画の欄、寸法及び記入文字は、現地裁判所と打ち合わせの上決める。
- 枠については、木製でも可。その場合には、見え掛り部分を、シオジ練付クリヤーラッカー仕上げ程度とする。
- () 内寸法は、現地の実状により大きくする事は支障ない。

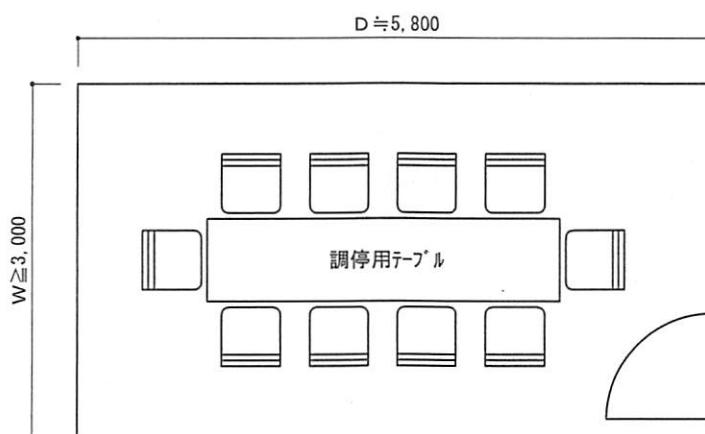
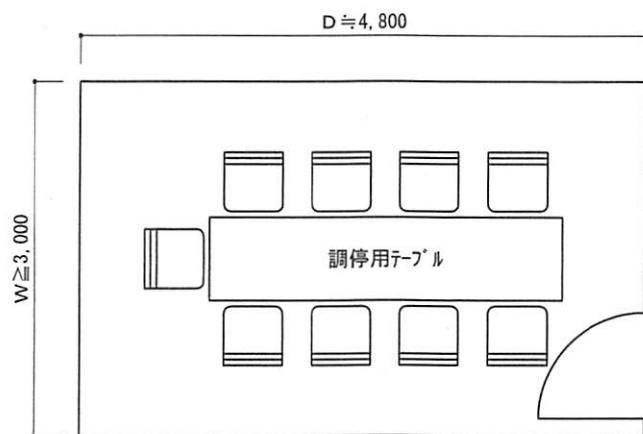
6 法廷傍聴人用いす配置例

■法廷傍聴人用いす配置例



7 調停室・医務室関係・階段参考例

■調停室家具配置例



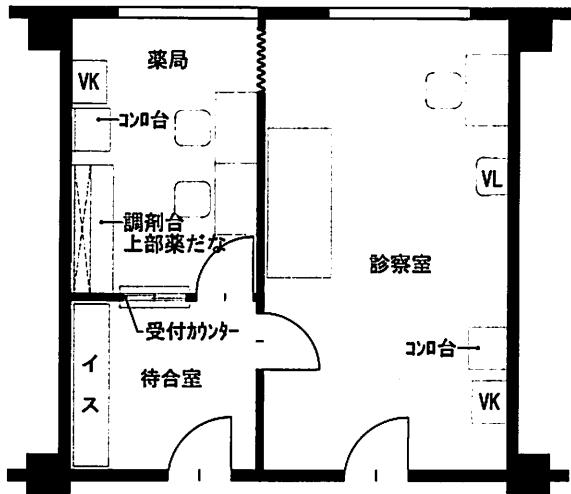
(注) W及びDは、内法寸法を示す

■注意事項

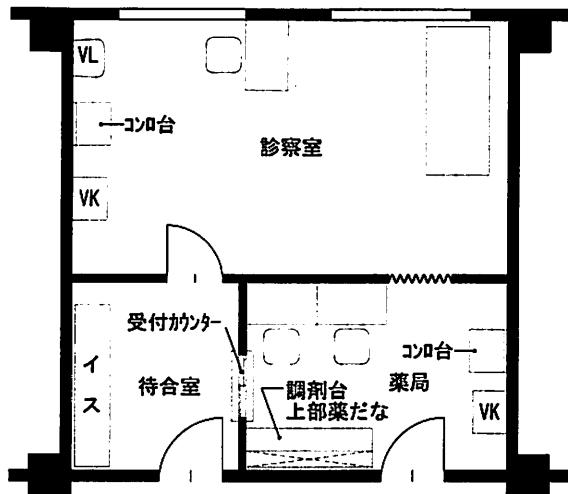


■医務室器具等配置例

1. 下記の図は、家裁医務室の参考例で、特定本庁に設置する診療室は、設計基準及び実状により設計する。
2. 器具等は、一般参考例である。



例1



例2

(注) 器具などは、下記の程度のものを設ける。

VL (洗面器) VL-520

VK (流し) 実状による。 (VK-130)

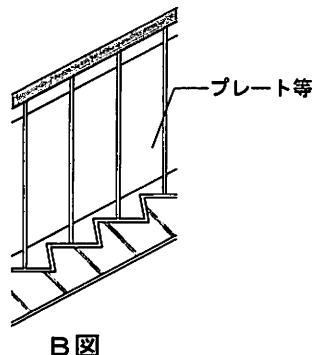
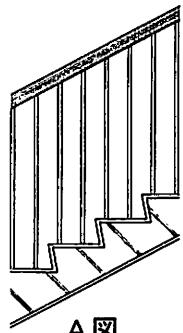
コンロ台 幅約500×奥行き約500

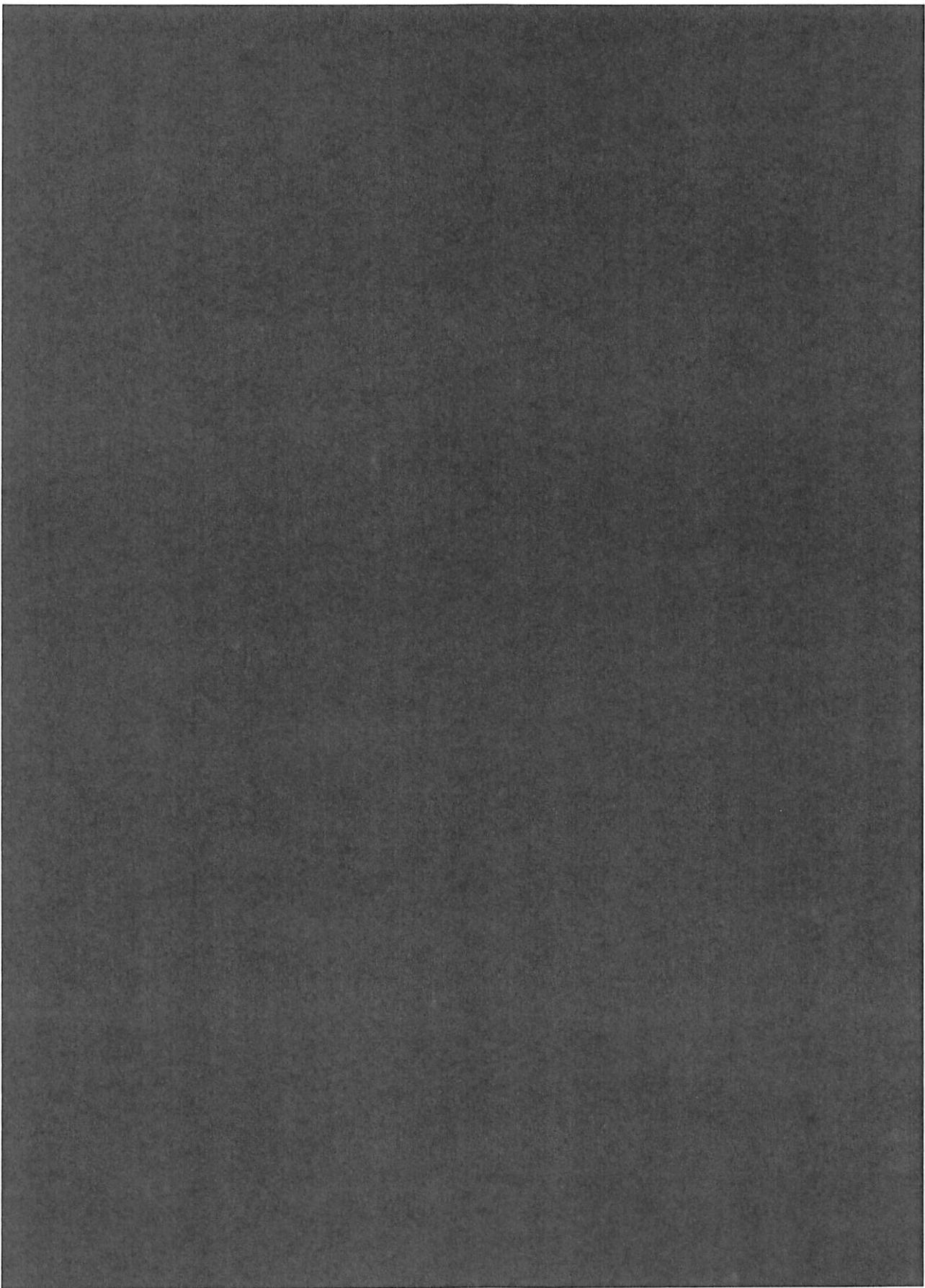
■一般階段手摺り子について

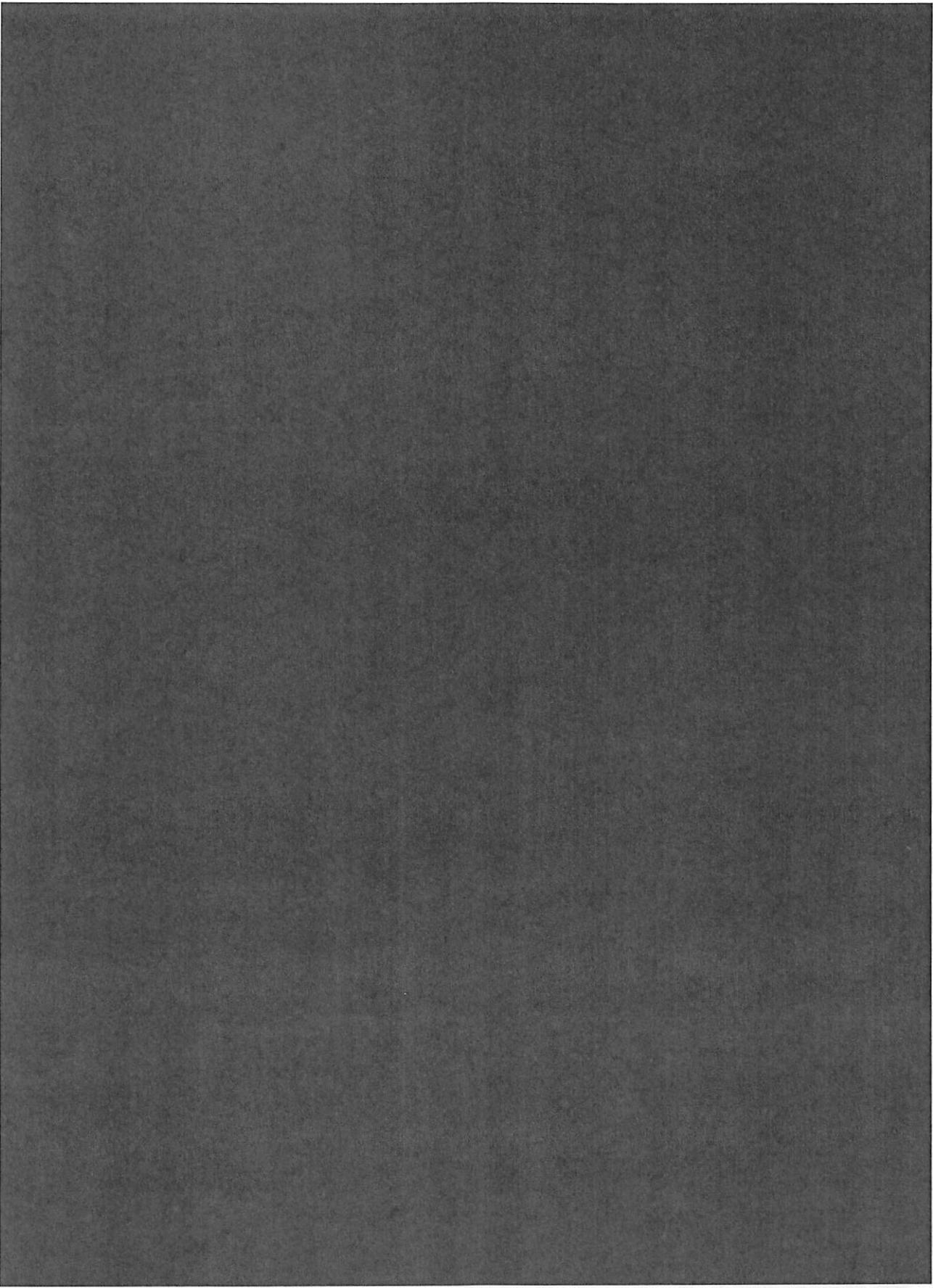
専用階段を除く一般階段の手摺は、幼児等の危険防止及び、飛降り防止のため、手摺り子間隔を下記のように配慮する。
なお、吹抜けのあるホールなどの手摺りについても同様とする。

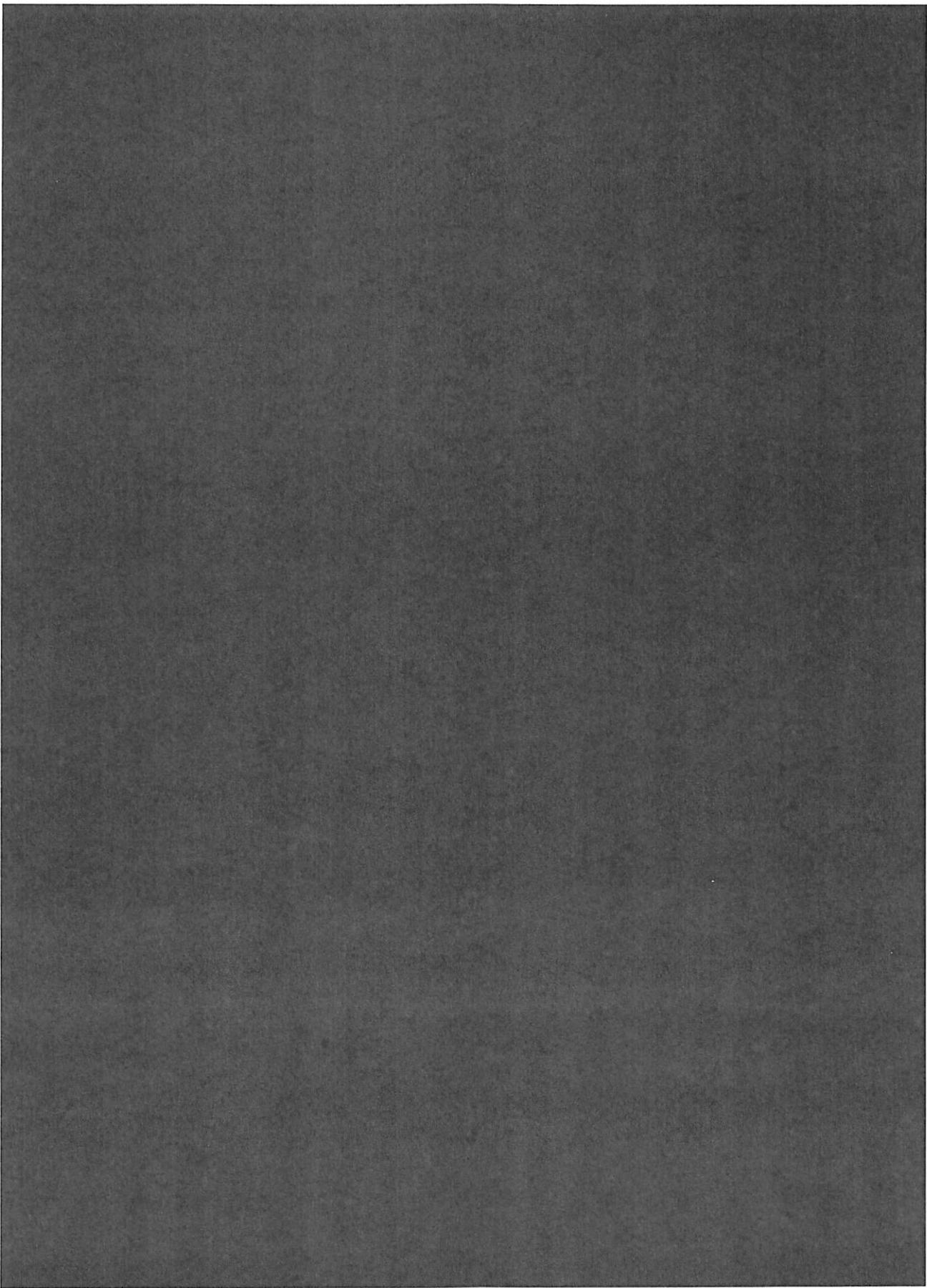
1. 手摺り子間隔を小さくするため、踏面一段につき2本程度とする。(A図参照)
2. 手摺り子間隔が比較的大きいときは、プレートその他により、危険を防止する。(B図参照)

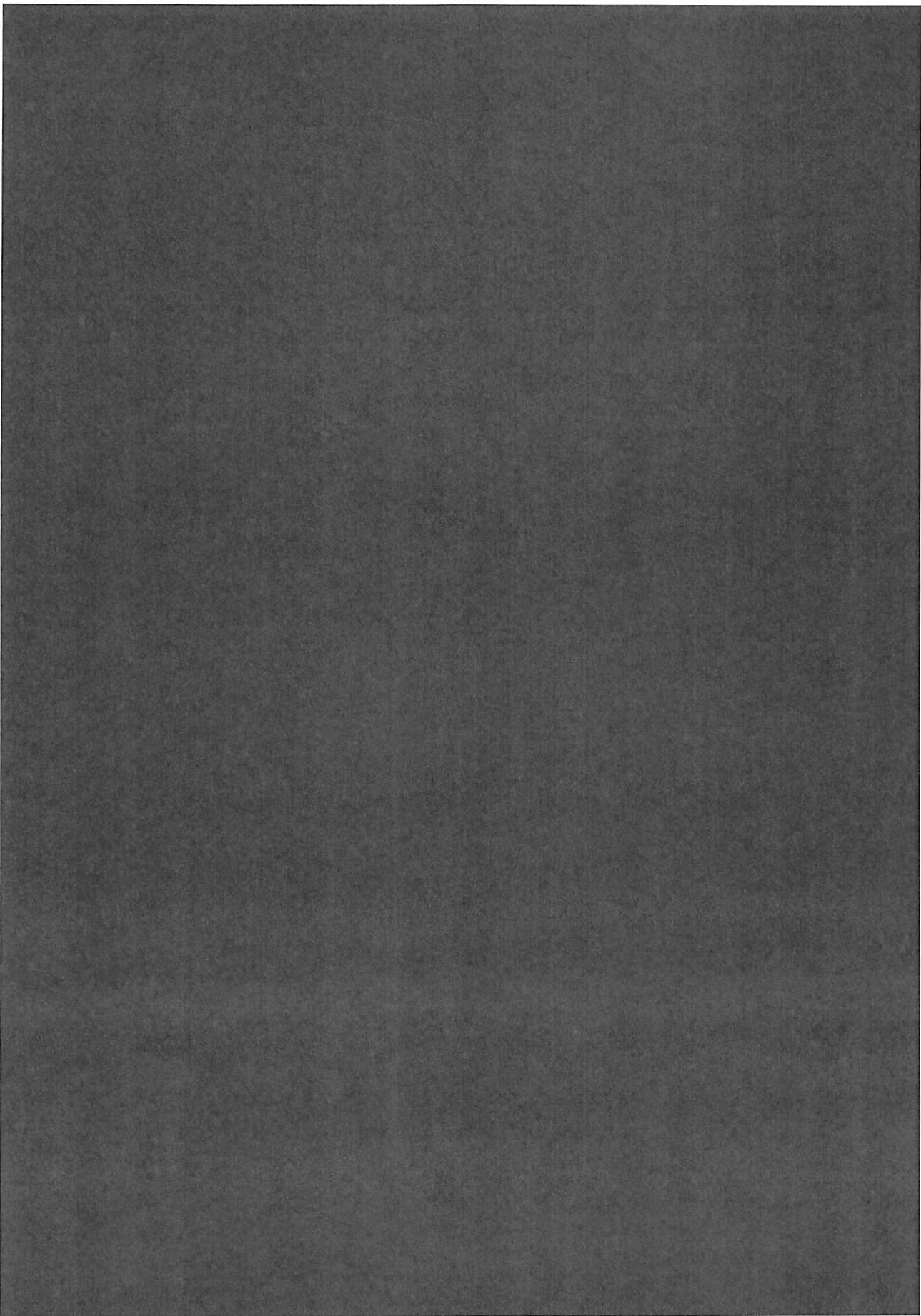
参考例（詳細は実施設計による）





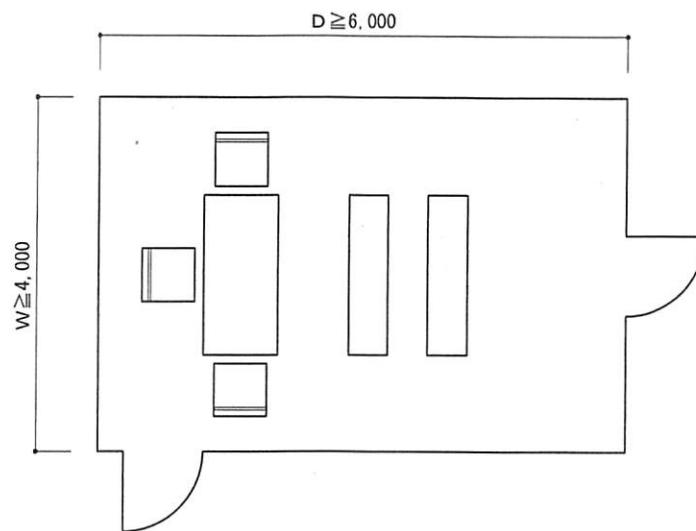






10 審判廷・傍聴人心得板等・各種棚

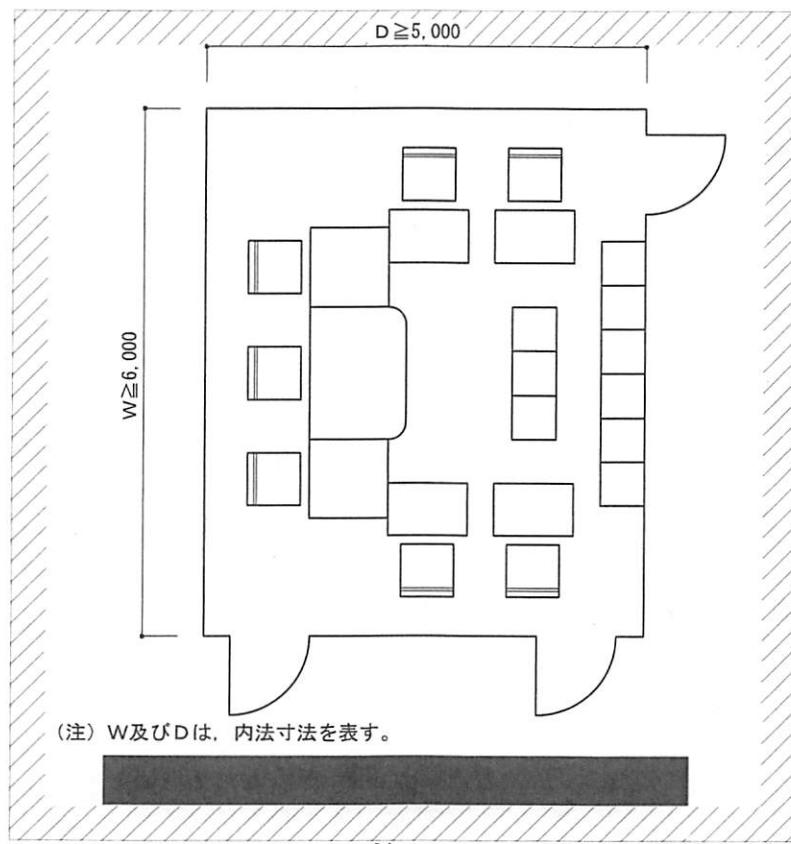
■家事審判廷家具配置例



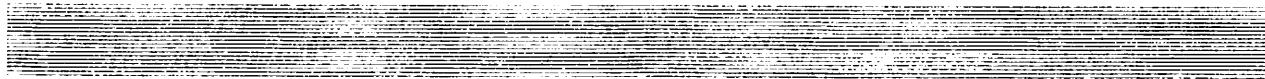
(注) W及びDは、内法寸法を表す。

合議審判廷とする場合は別途寸法を考慮する。

■少年審判廷家具配置例

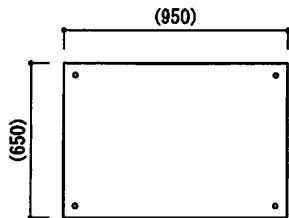


(注) W及びDは、内法寸法を表す。



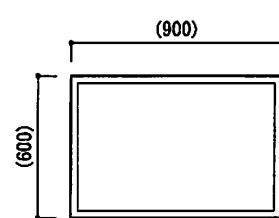
■傍聴人心得板参考例

(例 1)



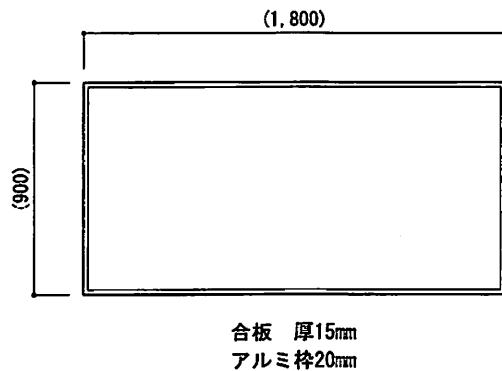
アクリル板 厚 9mm
四方ビス止め

(例 2)



合板 厚 9mm
アルミ枠30mm

■競売関係注意板参考例



合板 厚15mm
アルミ枠20mm

■各種棚

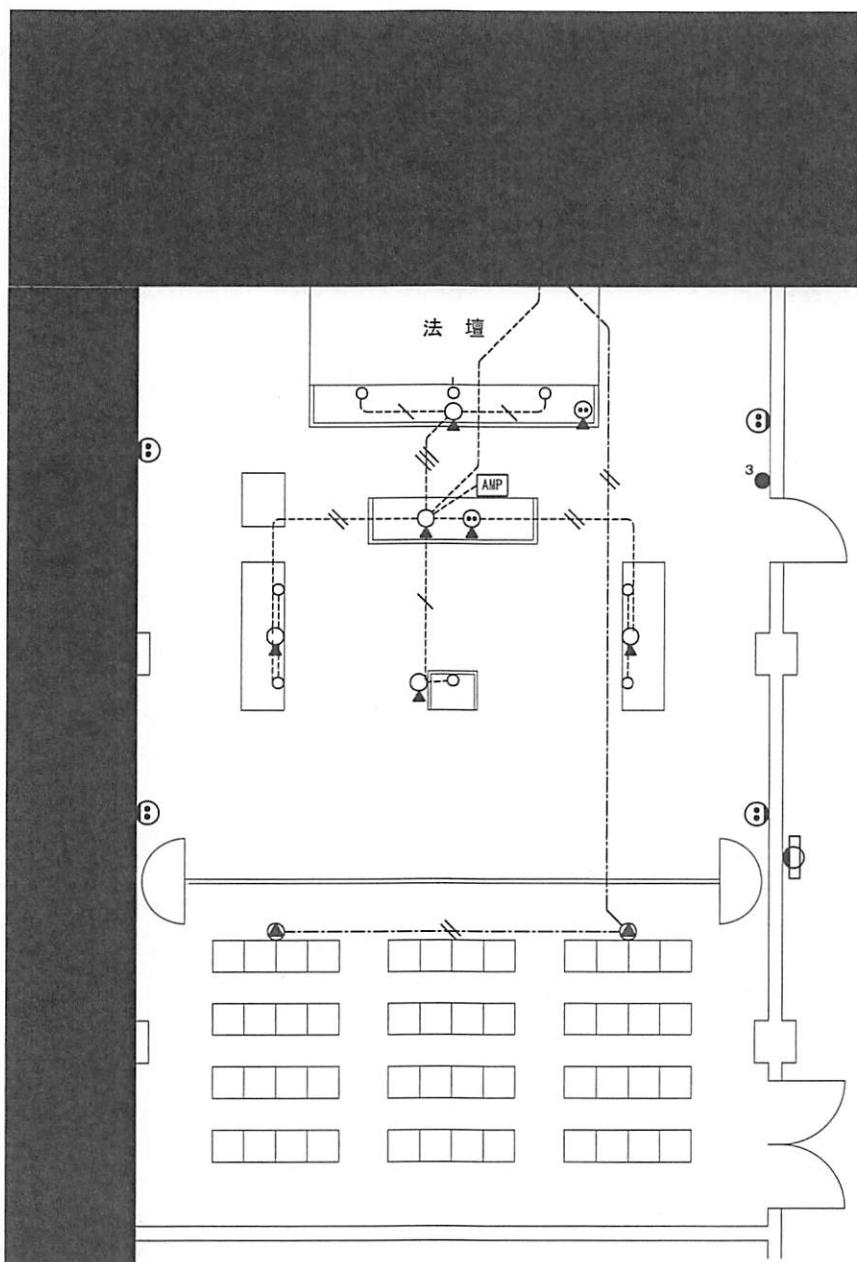
1. 書庫及び [] の棚は、JIS-S1039（書架・物品棚）による。
2. [] 用紙庫、備品庫の棚は、[] JIS-S1039（書架・物品棚）による。
3. 各室に踏台を、1台以上設ける。

■注意事項

1. 傍聴人心得板、競売関係注意板は、参考例であり現地裁判所と打合せの上決める。
2. 審判廷の扉に [] と「関係人入口」を張付けることができる。

11 コンセント・法廷拡声設備

■合議法廷



凡例

○ ローテンションアウトレット

● 照明スイッチ

○ マイクロホン

●³ 照明3路スイッチ

◎ 壁付きコンセント

□ 開廷表示灯

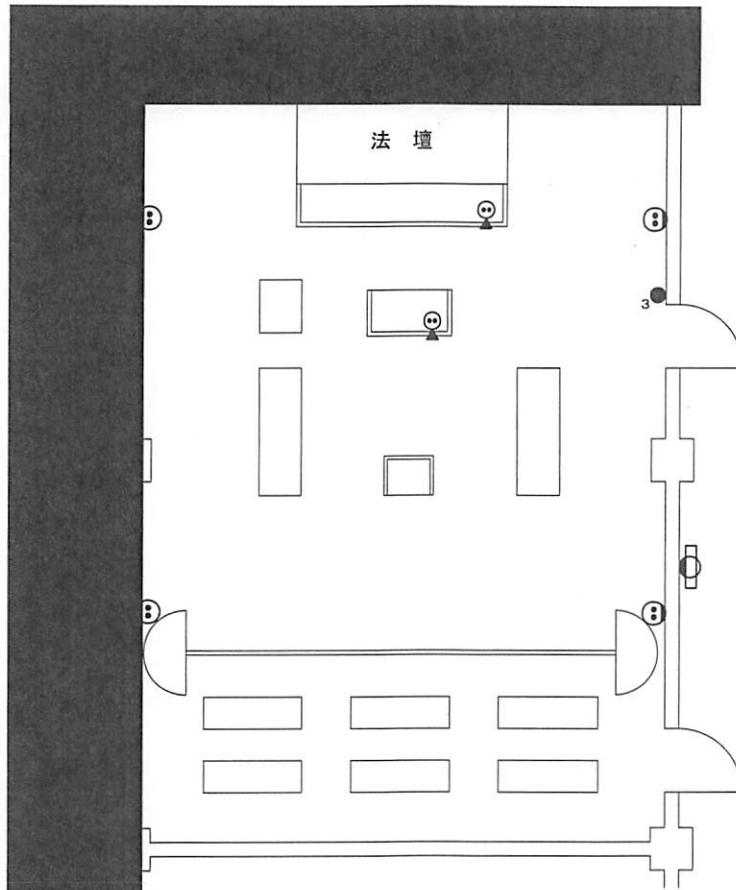
◎ フロアコンセント

◎ 埋込型スピーカ

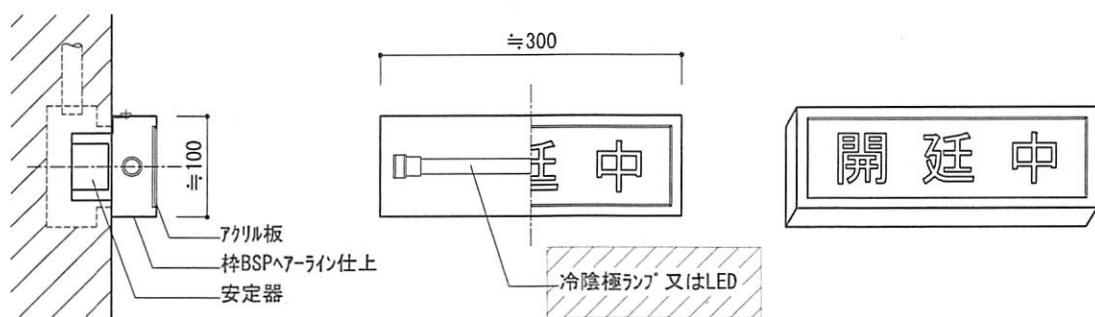
□ ジャンクションボックス

[AMP] アンプ

■単独法廷



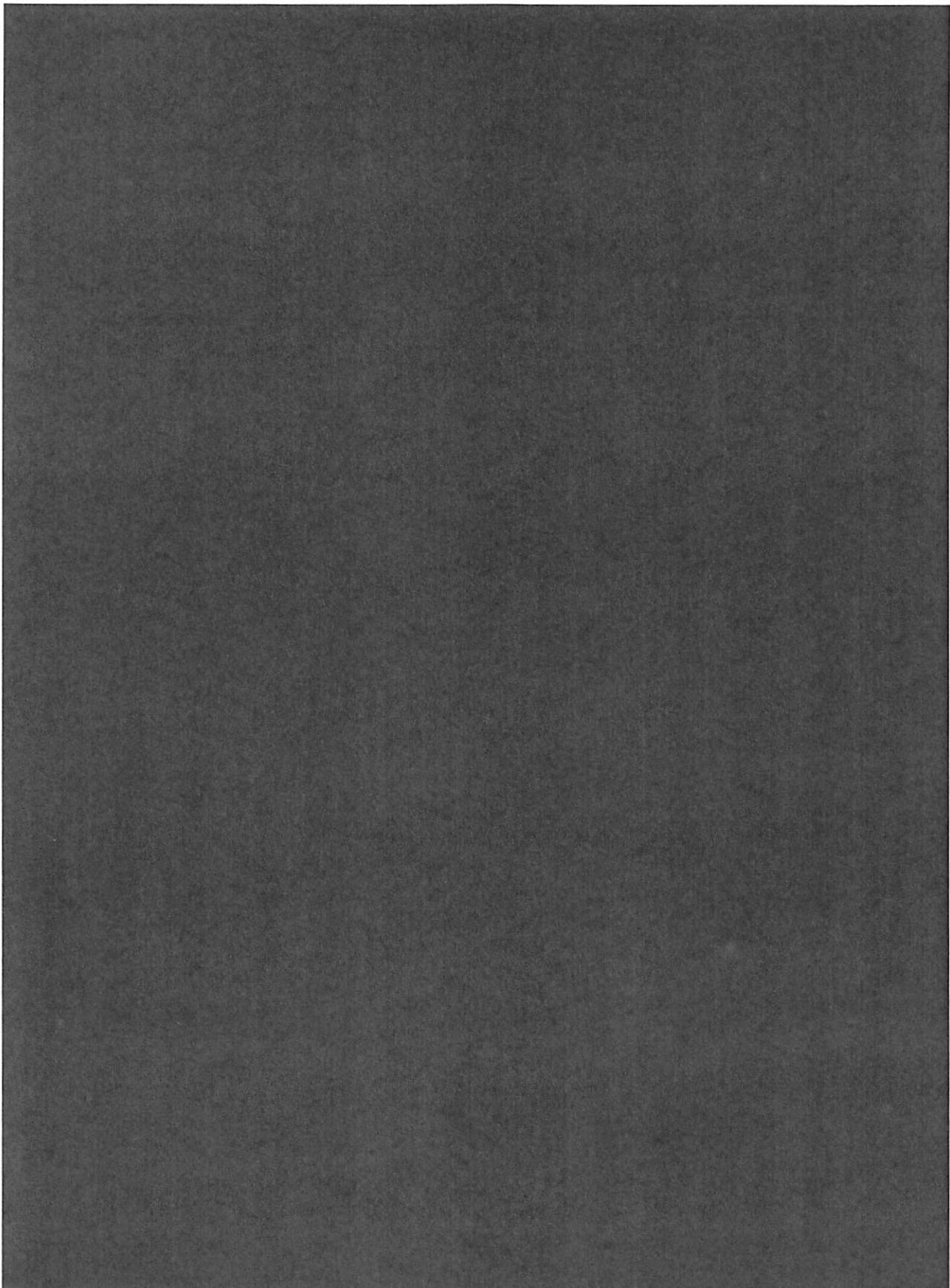
■開廷表示灯詳細図

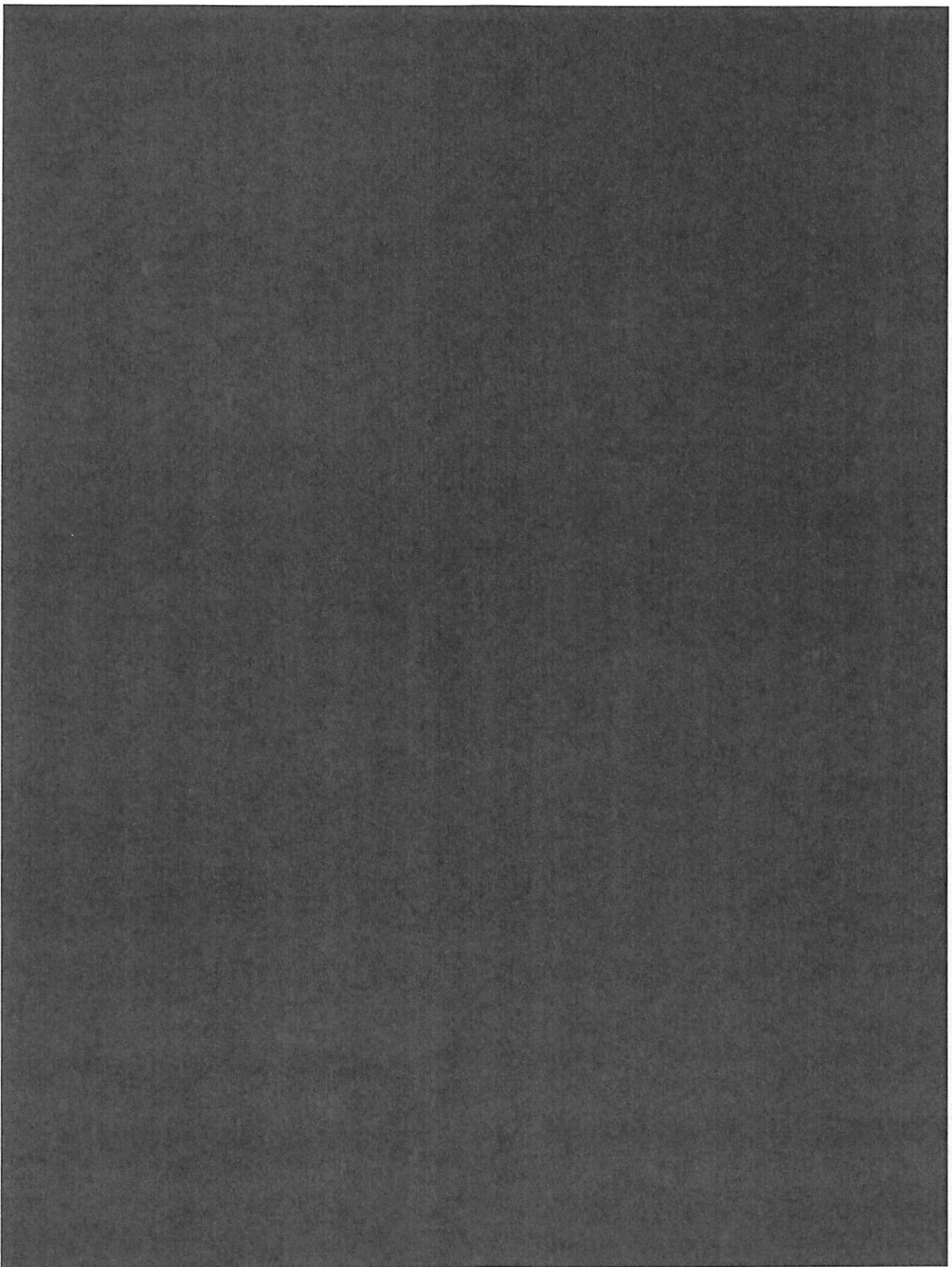


1. 表示灯は半埋込形とし露出部分の寸法は事件表示板に合わせる。
2. アクリル板は内側より乳白アクリル板、グリーンフィルター、グレーシート（文字切抜）、スモーカクリル板とする。

■注意事項

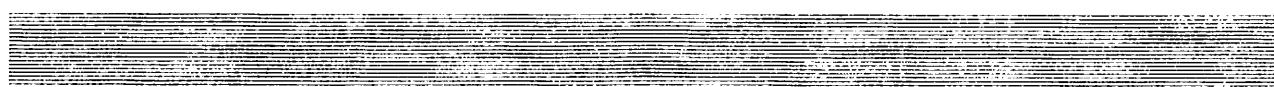
マイクロホンケーブルは、専用ケーブルとする。



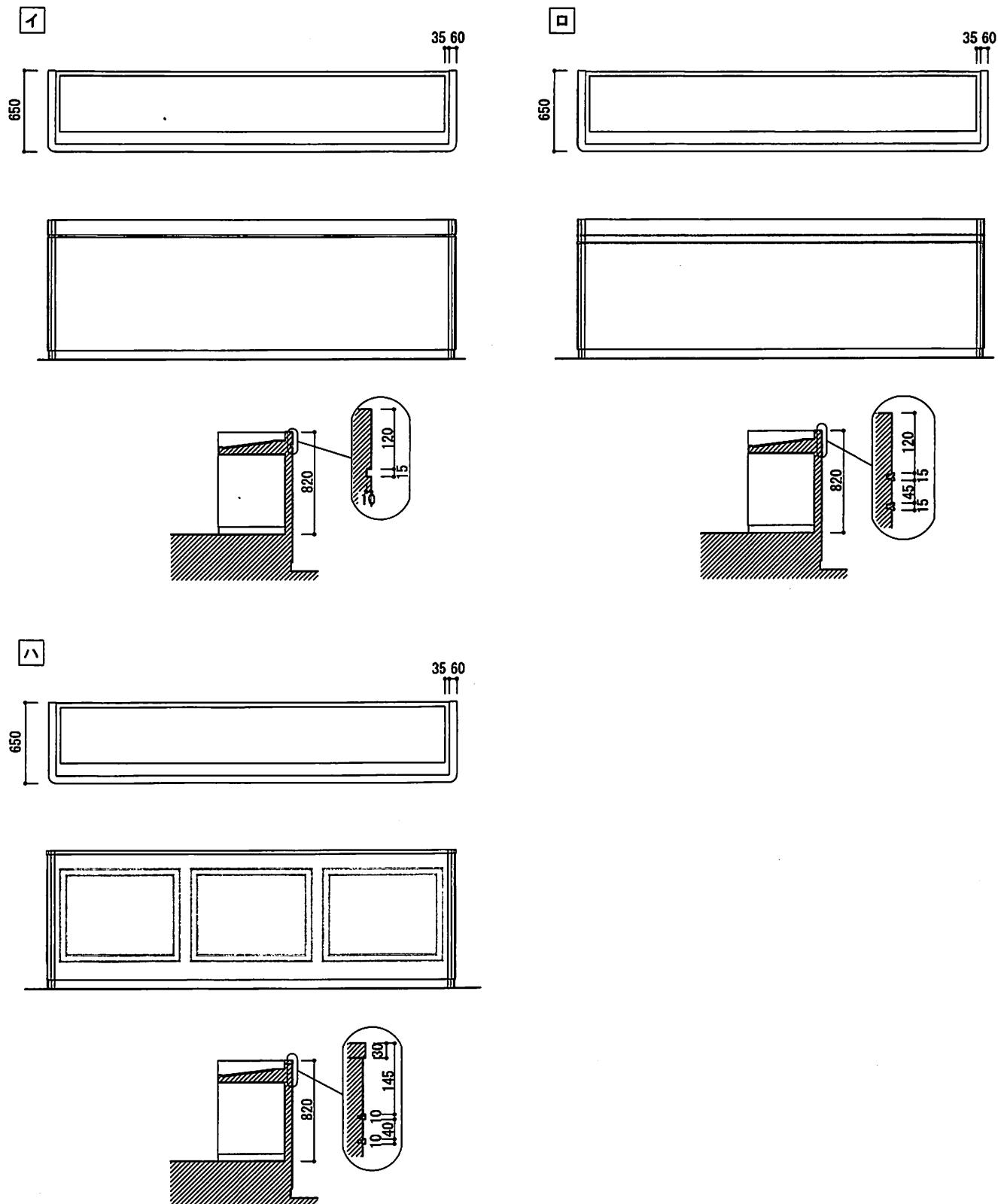


13 別添資料

- 法卓デザイン例
- 二重床及びタイルカーペット対象室
- じゅうたん仕上げ区分（案）
- 扉、間仕切り壁及び天井の仕様について
- 事務室の自動扉設置条件について
- 調査室のマジックミラー設置条件について
- 裁判員裁判制度関連諸室について



■法卓デザイン例



■二重床及びタイルカーペット対象室

H16.7.23

二重床及びタイルカーペット対象室

室 名	二重床	床仕上		備 考
		改訂前	改訂後	
法廷（改修工事は対象外 *）				
合議法廷（独立家裁含む）	○			
単独法廷（合議事件非取扱支部以上）	傍聴席は除く	ビニル床タイル（軟）	タイルカーペット	傍聴席は実状により二重床可
R T 法廷（合議事件非取扱支部以上）	○			
簡裁法廷（独立簡裁）	×	ビニル床タイル（軟）	ビニル床タイル（軟）	
簡裁 R T 法廷（独立簡裁）				
	×	ジユータン（敷込み）	カーペット（織ジユータン） (敷込み)	
			タイルカーペット	
	○	ジユータン	タイルカーペット	
	△	ビニル床タイル（軟）		
書記官室、調査官室	○	ビニル床タイル	タイルカーペット	
訟廷事務室				
高裁事務局事務室				
総務課				
人事課	○	ビニル床タイル	タイルカーペット	
会計課				
管理課				
地家裁事務局事務室				
総務課				
人事課	○	ビニル床タイル	タイルカーペット	
経理課				
会計課				
出納課				
用度課				
資料課				
地家裁支部事務局事務室				
庶務課	○	ビニル床タイル	タイルカーペット	
検察審査会事務局				
審査事務室（※2）	○	ビニル床タイル	タイルカーペット	
その他				
執行官室（※1）	○	ビニル床タイル	タイルカーペット	
医務室	×	ビニル床タイル		

凡例) ○: 実施 △: 実状による ×: 実施見合せ

* 既存の法廷改修については、裁判員の運用方針が出された時点で検討する。

(※1) 執行官が少數しか配置されていない庁については、事務員の人数・整備予定の

パソコン台数・執行官事務室の形状等を考慮して必要な場合に整備を行う。

(※2) 審査事務室が独立した事務室で、かつ職員が複数勤務している室に整備を行う。

注) タイルカーペットはループパイル、厚6.5mmを標準とする。

■じゅうたん仕上げ区分（案）

じゅうたん仕上区分（案）

H 9. 6. 13

部屋名		設計基準	適正ランク				
		ジュークン	W-10				
	"	"	W-7				
	"	"	T-7				
		タイルカーペット	タイルカーペット				
		タイルカーペット	タイルカーペット				
		タイルカーペット	タイルカーペット				
会議室	特定本庁	大 中 小	"	T-7			
				*			
				*			
				T-7			
	合議事件 取扱支部以上	タイルカーペット	タイルカーペット				

[凡例] W : ウィルトンカーペット

T : タフテッドカーペット

数字: パイル長

* : 実状により、T-6(6-7°), タイルカーペット, ピニール床タイル等を考慮する

" : 上欄と同じ

■扉、間仕切り壁及び天井の仕様について

設計資料1

01.07.27

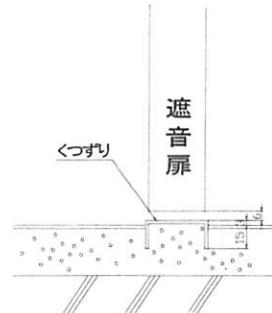
扉、間仕切り壁及び天井の仕様について

1. 扉の仕様(遮音性能)について

(ア) 法廷、ラウンド法廷、■

会議室等

遮音扉(遮音等級 T-1程度)を使用する。
枠のタイプは、三方エアタイトとし、扉の下部は隙間
(6m/m以内)とする。



(イ) 審判廷、審尋室、調停室、調査室、準備手続室(兼和解室)、相談室、■等

遮音扉(遮音等級 T-1)を使用する。枠のタイプは、
三方エアタイトとし、扉の下部はエアタイト装置を設ける。

(ウ) 一般室

一般扉(ペーパーコア)を使用する。

2. 間仕切り壁の仕様について

(ア) 法廷、ラウンド法廷、会議室等

せっこうボード厚 12.5+12.5 両面張りとする。また、四周シールとする。

(イ) 審判廷、審尋室、調停室、調査室、準備手続室(兼和解室)、家裁相談室、■等

せっこうボード厚 12.5+12.5 両面張り、ロックウール厚 50, 40Kg/m³充填とする。また、四周シールとする。

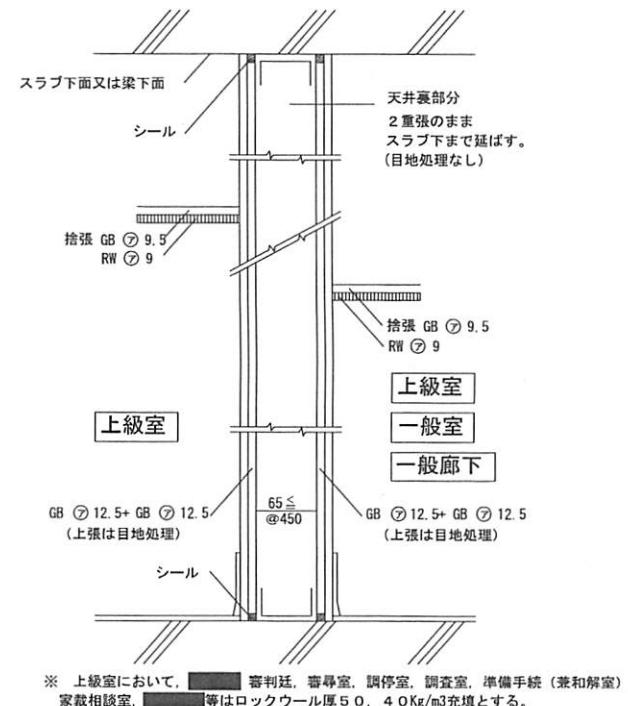
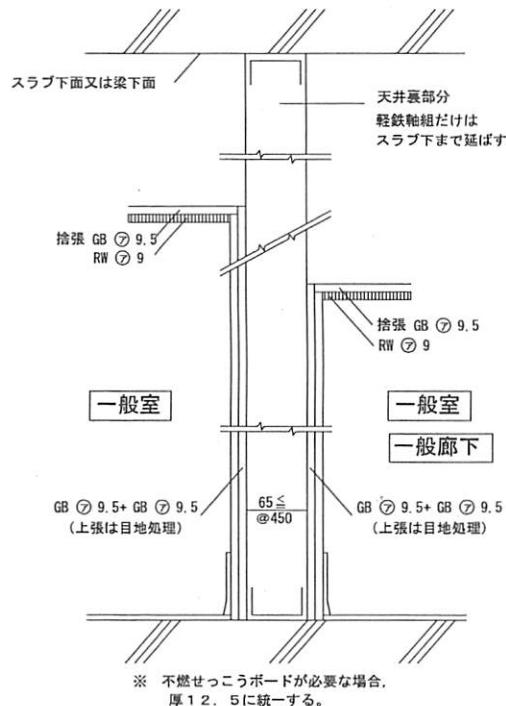
(ウ) 一般室

せっこうボード厚 9.5+9.5 両面張りとする。張り上げは天井までとする。

3. 天井の仕上げについて

(ア) 上級室、一般室共、捨張せっこうボード厚 9.5+RW厚 9 程度とする。

間仕切り壁の仕様について（軽鉄せっこうボード壁）



上級室とは法廷、ラウンド法廷、
秘書官室、会議室、調停室、調査室、
準備手続兼和解室、家
裁相談室等のことである。

■事務室の自動扉設置条件について

事務室出入口の自動扉化は下記条件を全て満たす場合に考慮する。

1. 1階玄関ホールに面した書記官室であること。
2. 地裁、簡裁の民事関係の受付を集約した書記官室であること。
3. 相当数の来庁者が見込まれる書記官室であること。
4. 原庁の強い要望があること。

■調査室のマジックミラー設置条件について

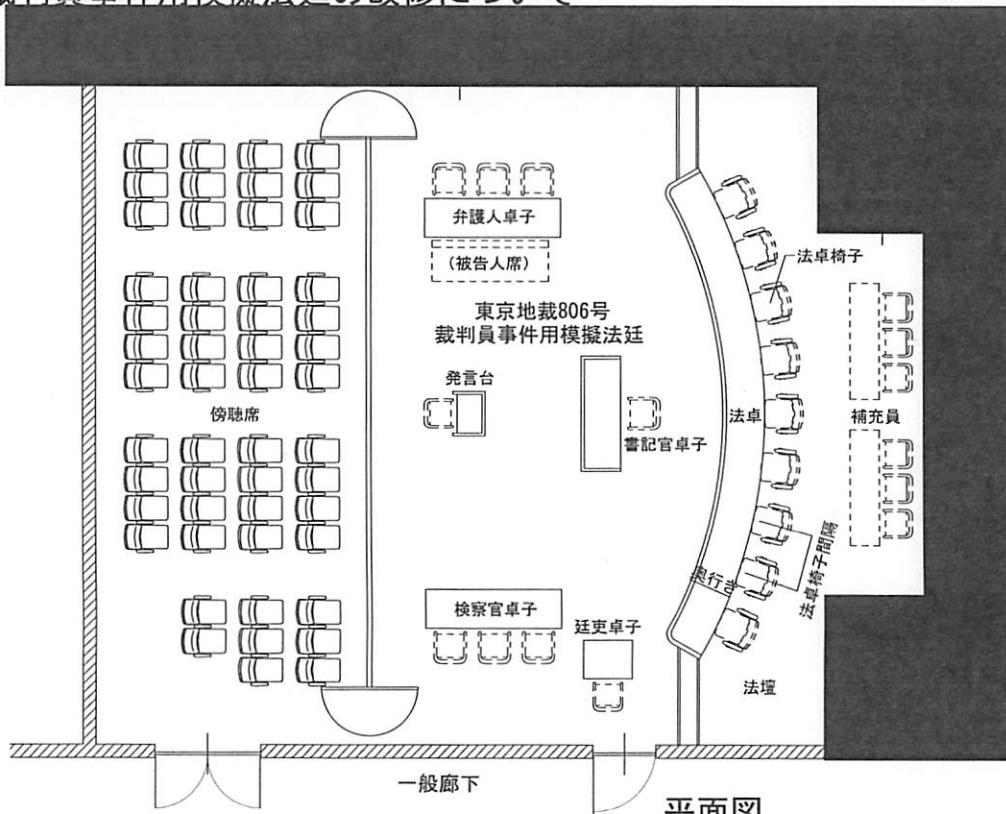
調査室のマジックミラー設備は下記条件を全て満たす場合に考慮する。

1. 原庁の強い要望がある。
2. 本庁及び本庁相当規模の支部庁舎である。
3. 庁舎の新築若しくは増築工事であり、他の事件処理室が十分確保出来る。
4. その他（算定調査室数の範囲内である）

以上の条件を満たす際に考慮し、新築、増築時に統一的に実施するものではない。

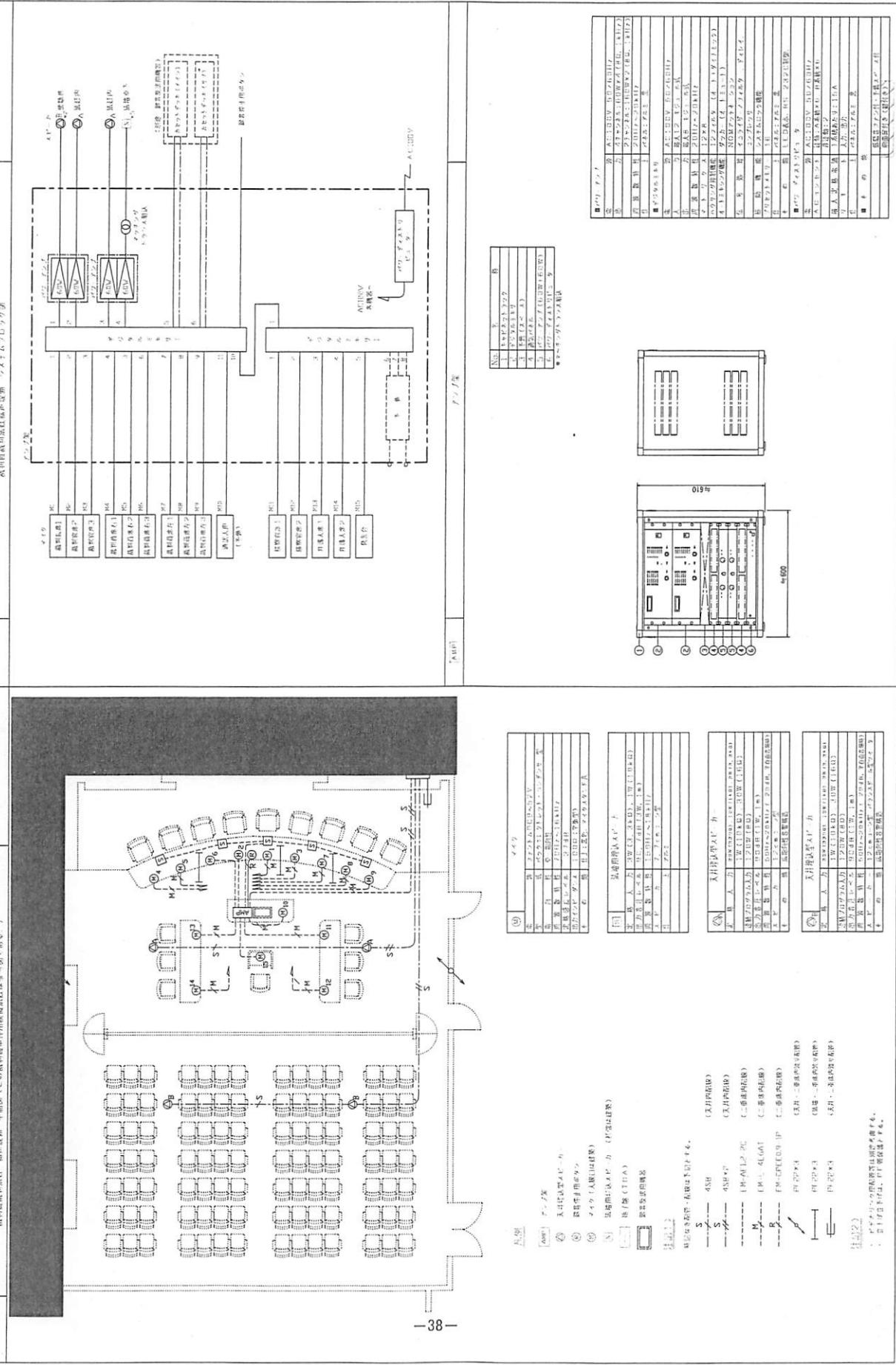
裁判員事件用模擬法廷の改修について

裁判員事件用模擬法廷は参考図である。



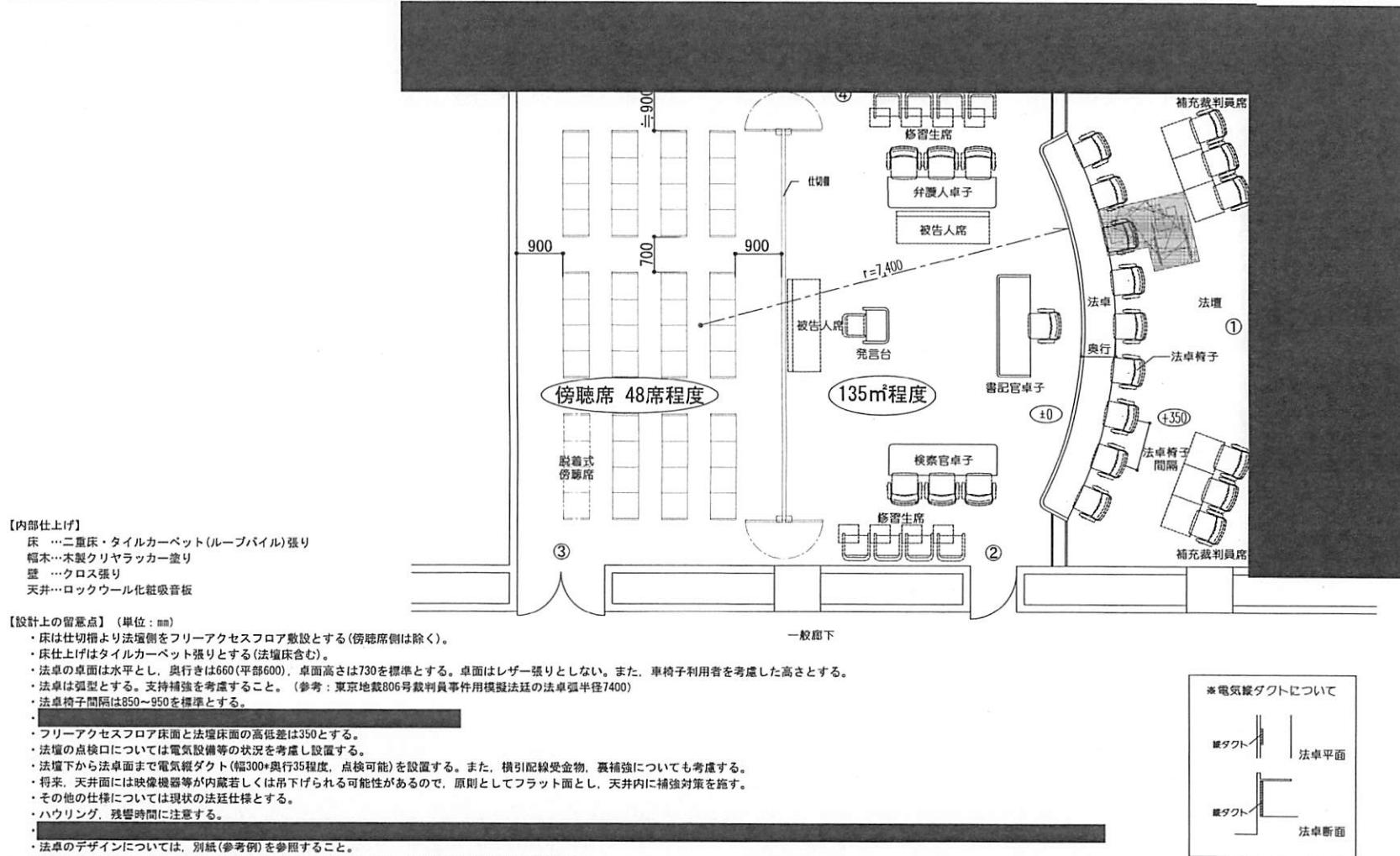
平面図

1. 原則として、床、壁及び法廷家具等について再利用できるものは利用すること。上図の波線表示家具は備品対応とする。
2. 床は仕切柵より法壇側をフリーアクセスフロア敷設とする（傍聴席側は除く）。
3. 床仕上はタイルカーペット張りとする（法壇床含む）。
4. 法卓の卓面は水平とし、奥行きは660（部幅600），卓面高さは730を標準とする。卓面はレザー張りとしない。また、車椅子利用者を考慮した高さとする。
5. 法卓は弧型とする。支持補強に考慮すること。（参考：東京地裁806号裁判員事件用模擬法廷の法卓弧 半径 7400）
6. 法卓椅子間隔は850～950を標準とする。
7. [Redacted]
8. フリーアクセスフロア床面と法壇床面の高低差は350とする。
9. 法壇の点検口については電気設備等の状況を考慮し設置する。
法壇下から法卓面まで電気縦ダクト（幅300*奥行35程度、点検可能）を設置する。また、横引配線受金物、裏補強についても考慮する。
10. 将来、天井面には映像機器等が内蔵若しくは吊下げられる可能性があるので、原則としてフラット面とすること。
11. 法卓のデザインについては、東京地裁806号裁判員事件用模擬法廷のデザインと異なる計画の場合は、参考に図面を送付すること。
12. その他の仕様については現状の法廷仕様とする。
13. 既存法廷の改修であり、以上は一応の標準であって各庁の実情に応じた対応も可能であるので、質疑事項等があれば連絡してください。（単位：mm）



新宮・増築時の裁判員裁判法廷 イメージ（案）

-39-



新宮・増築時の裁判員裁判法廷（大）イメージ（案）

—40—

【内部仕上げ】
 床 …二重床・タイルカーペット(ループパイル)張り
 幅木…木製クリヤラッカ一塗り
 壁 …クロス張り
 天井…ロックウール化粧吸音板

【設計上の留意点】 (単位:mm)
 • 床は仕切柵より法壇側をフリーアクセスフロア敷設とする(傍聴席側は除く)。
 • 床仕上げはタイルカーペット張りとする(法壇床含む)。
 • 法卓の卓面は水平とし、奥行きは660(平部600)、卓面高さは730を標準とする。卓面はレザーパーツとしない。また、車椅子利用者を考慮した高さとする。
 • 法卓は強型とする。支持構造を考慮すること。(参考: 東京地裁806号裁判員事件用模擬法廷の法卓弦半径7400)
 • 法卓椅子間隔は850~950を標準とする。
 • フリーアクセスフロア床面と法壇床面の高低差は350とする。
 • 法壇の点検口については電気設備等の状況を考慮し設置する。
 • 法壇下から法卓面まで電気配管ダクト(幅300×奥行35程度、点検可能)を設置する。また、横引配線受金物、裏補強についても考慮する。
 • 将来、天井面には映像機器等が内蔵若しくは吊下げられる可能性があるので、原則としてフラット面とし、天井内に補強対策を施す。
 • その他の仕様については現状の法廷仕様とする。
 • 檢察官卓子、弁護人卓子は原則1つとする。
 • ハウリング、残響時間に注意する。
 • 法卓のデザインについては、別紙(参考例)を参照すること。

注: 点線は備品でありイメージをつかむために表現してあり、その整備については別途検討する。

